

昭和 46 年 10 月 14 日(木)

私の人徳のせいでしょうか。またしても山小屋日記 No6 のトップを書く事になりました。それにしても No5 の日記の使用速度の速い事、8月などは1日 16 ページ進むという出来事もありました。欲求不満をノートにぶつけているのかな。あのノートで一番書いた人には、この際、何か賞金をやろうとか、いや罰金を取ろうかなんて、山小屋委員会で話が出たとか。今回は正式には、山小屋に来たのではなく、岡田さんの稲刈りを手伝いに来たのです。昨年も来たのですが、今年は立場が違って、いささかとまどい気味です。これで小屋に来るのは、9回目、1回来るのに電車賃が 2500 円也、だから今まで 2 万円近くの金を使っている訳です。オレは”馬鹿ダナー”とつくづく感じます。今年はなめこが不作とか、それに何日続くのか、この雨、なんとかならないかな。

3 年 13th 竹村昇

昭和 46 年 10 月 15 日(金)

日記 No 5 記載分田中

昭和 46 年 10 月 16 日(土)

<竹村、田中 五八木へ 川端、加納、左藤 下山> 竹村さんのすすめに従って、昼の残りのメシをソーセージと梅ボシとで食べながら記す。

本日、6時半起床。佐藤が一人起きていて、きのうとりつけた石炭ストーブをつけていた。佐藤 昨日は夏用シュラフとシュラフカバーとで寒くて一睡もできなかったそうだ。とにかく起きた時、小屋の回りじゅう霜柱が立っていた。寒くてフトンの中から出るのがおっくうであった。小屋内の温度 2℃。そしてまさに快晴。雲一つない、まったくの秋晴レー。ここで 5 人妙高に登ることに決定。昼食はメシに小屋のソーセージ。佐藤、川端、加納は小屋にもどらず下山する。用意をして出発。紅葉の中をノンビリ男 5 人歩く。出発して 1 時間半ほどして、佐藤が不調をうったえる。昨日の睡眠不足がたたったのだろう。ここで竹村氏、佐藤と一緒に下山することにして、1 年の 3 人は少しペースを上げ出発。急な登りで、日頃のトレーニング不足があらわれた。正午少し前に頂上に到着。さっそくみはるかす。そのながめの すばらしいこと。北アルプス全域が一望。白馬や穂高の頂上付近には雪が積もっていた。また妙高の山頂にも、4、5 日前に降った雪が残っていた。以下、暗くなってきた、竹村さんにさいそくされ しょう略。

1 年 15th 田中武憲

暗くなってきた。今日、小屋から出て再び岡田さん宅に戻る。天気が良くなって仕事が忙しくなったとか。しかし農業って天気まかせて優雅だねー。ともかく杉野沢に買い出しに出たつもりが 帰りはバイクで田中を迎えに来ることになったのです。頼まれるといやと言えないのが私の欠点でありまして、しかたの無い事です。小屋に戻ってからは、「ユーガ」「ゆーが」「優雅」とさげびながらのんびり後かたづけやら飯食ったりしているところです。そうそう佐藤と大谷ヒュッテより裏を通り池の平に降り、杉野沢に行ったのですが、要(カナメ)より池の平、1 時間 10 分、池の平より杉野沢は 30 分かかりました。池の平にはイモリ池があり、春には水芭蕉の花が美しいとききました。左のおしば は、昨日黒沢に行った時とって来たものです。きれいでしょ。女の子(!!)で欲しい人はあげます。男はだめだ。

3 年 13th 竹村昇

これで小屋から降りる事にしますが今回はじめて(冬を除いて)、どこのピークも踏みませんでした。まあこんな事もあってよいでしょう。いままで、あまりにも強引に登りすぎましたから。次に来るのは大学祭の前だと思うけど、火打に登ろうと思っています。夏の火打はすばらしいとききましたので、そこで夏に行った北アルプスがみえたら幸せです。ではまた。

小屋を大事に使って下さいネ。

3 年 13th 竹村昇

昭和 46 年 10 月 21 日(木)

10.21

今日は。今度くるときは、雪にうもれていますね。紅葉が美しく、妙高、黒姫がかがやいている。稲刈りごころうさま。

10/20 4 人岡田氏稲刈り手伝い後小屋へ、岩船現る、小口後着

昭和 46 年 10 月 21 日(木)

山小屋に来るのは 2 度目だけだ 今一人日光浴とシャレながら といつか イキがってベンチの上ですわっています。時々車の通る音が聞こえてくるけれど、実にけっこうなムード、風にゆられて木の葉が落ちる。そして前方には少しかすんだ妙高。今 僕はおふとんをほしているのです。10 月 13 日に巻機・谷川の P. W へ行く、降りた日に五八木荘へ行く、2 日間働いて今一人、明日から苗場の P. W の為休養をとっているのです。本当は山川さん、山ノ井さん、小泉といっしょに妙高へ行きたかったんだけど、足首が少し痛いので pw をバテずに楽しみ体からここにいるんだ。夏合

宿のとき山小屋をそう強く意識していなかった。自分達の小屋の有効性をほとんど認めなかったけれど、今一人でいると実にいい。僕はいつもさめた目で見ると、さみしがり屋と違うためなのか、一人でいるときは多勢でいるとき程、いや全く心の孤独を感じない。でも一人が好きだなんてキザなことを言ってるのでは決してない。

最近どうも多人数でワイワイと騒いでいる途中でなにかしらさめて、それでも乗ってるふりをする。そしてそんな僕と同じように、演技している人を見る。なぜそんな「ふり」をするんだろう。自分も含めて、人を傷つけないという優しさの為か、こんな事は個人的に話したいから 他の機会にまわそう。そうだ、そんなことを話す為にも小屋を使いたい。・・・空白(うどんを作っている)・・・沈黙・・・思索・・・いったい日常生活で、僕は何を欲しているんだろう。なんとなく、で流されたくないのだが・・・しかし

1年 15th (Y.Sakamoto) 阪本喜英

本当ならば 17日の夜行でたつて、18日の朝には山小屋に来ていたはずだったのだけれど、もっと本当には、9月中には来ていなければいけなかったのだけれど、少しカゼ気味で、出発をのばし、19日の夜行で来て、岡田さんのところのイネ刈りを一日だけ手伝った。

きょうは私と、山ノ井・小泉・阪本といっしょに山小屋にやって来た。ちょっと山小屋の前をはいっていきと、さっそくキノコがはえていて、バッチリ全部とってきた。

阪本を残して、本当は妙高まで登る予定だったのだが、途中ではらがへり、おにぎりを食べていると、目の前の切り株にナメコがゴッソリはえていたのが契機となり、にわか挫折ムードが広がり、結局 要 まで行って引き返してきた。帰ってくるとひょっこりと岩船が現れた。4人でキノコ汁を作ってたべた。おいしかった。まだ、何ともない。

山小屋日記を読んでいると、このストーブはよく燃えないとか。・・・パツ。よく燃えました。実によく燃えております。竹村、一体何をやっているのだ。これで安心である。

さっき、山川園を見てきたら、野沢菜は全滅、ダイコンもきわめて細いのが、というより、ナツパより細いのがチョロチョロと生えているだけであった。どうやら、種をまいてからの手入れがあまりにも悪すぎたようである。

4年 12th 山川隆

今、メシをたべている。ストーブはよく燃えている。たった一人である。早く小口がくるといい。あつたかくて、おいしくて、何も言うことがない。ミソがあるといい。今のキノコ汁はナメコとクリタケ。これはミ

ソ汁風にするか、おすいもの風にした方がうまい。シシタケだと、肉と一緒に煮たりした方がよい。

小口が来た。ミソでキノコ汁をつくり、もう食べちゃった。食べ過ぎて腹がチャポチャポいいそうである。

これから寝るところ。あまり書くこともない。では、おやすみなさい。

4年 12th 山川隆

昭和 46年 10月 22日(金)

<入小屋: 松永・垣内+国語科女性2人(鈴木・小山)、夕方鈴木道夫入(2日間稲刈り後)>

<出小屋: 小口>

朝、小口が稲刈りに下りて行く。よくやるのである。私も起き出して、水くみなどをする。井戸の流しに落ち葉がつもり、そばの木に、枯れ葉がカサコソと風に揺れているところなど、風情がある。

一番バスで、松永と垣内+国語科の女の子二人(鈴木嬢・小山嬢)がやってきた。さっそくキノコ汁を食わせたが、うまくないのか、一杯しか食わない。午前中は 30分位、山小屋のそばでキノコをとった。午後は要の方に行ってみた。帰ってきてから、暗い中で、コタツを使えるようにした。次頁に図解するのでよく見ること。

(図あり)

今はラジを使っているの、アミに足を付けて、やけどをしないようにしている。そのうちに、練炭などが入れば、もっとよくなると思う。(註: 練炭 12/25 入った、仲々いける。)

夕方、道夫がはいってきた。二日間稲刈りをやって、明日は火打に登る。私もつきあうことにした。

これで総勢6名になったが、コタツの中で、ラジを弱くつけておくだけでポカポカしてくる。石炭ストーブを使うと、一晩に、洗面器一杯ちょっとの石炭を使ってしまうことを考えると、ラジを満タンにしておくだけで楽に一晩もつというのは、経済的だと思う。以後、少人数ではいる人は、みなコタツを利用するといいたいと思う。

せつかく道夫が来たのに、雨が降り出す。12時頃、みな寝だす。雨が降ったりやんだりしている。今、ノートをパツと見て、私は字が汚いようです。明日からは気を付けて書くことにします。では、おやすみなさい。

4年 12th 山川隆

昭和 46年 10月 23日(土)

雨のち晴れたり曇ったり。時々ガスがでる。雨、目を

覚ますと雨～。というわけで、火打へは行かないことになりました。10時頃から雨が止んだので、どこに行こうかということになり、色々と考えたあげく、おみやげにキノコをとりに行くことにした。結局、毎日キノコをとっていたことになる。今日はまじめに取ったので、松永・道夫それに私の三人で午後からサブザック2杯ほど採った。どうもボールペンが悪いのでうまく書けない。しかし、ばんばって、人のボールペンを借りて続けます。一番たくさん採れたのがカタハである。これはツキヨタケと良く似ているので、あまり大きいと、ツキヨタケではないのかと心配になる。あと、ナメコがたくさんと、クリタケが少々、その他色々である。雨が降るとキノコがいっぺんに育つようである。今回一年生が沢山居るのではないかと思っていたが、一人も居ず、がっかり。大学祭でキノコ汁をつくらうかという話だ。

4年 12th 山川隆

3回目の山小屋。きれいになっていました。部外者として1回目。ナントナク懐かしく、ナントナク淋しく、複雑な気持。期待していた紅葉も、天候不良の為か、初めてみたとき程の美しさは無かった。でも、元同期(12期)の山川君と14期の鈴木道夫君と一緒にキノコ採りへ行ったり、けっこう楽しく2日間を過ごしました。ただ、来る度に山小屋が便利になってゆくのが(といっても、3回目でデカイことは言えませんが)良いのやら、悪いのやら。元ワングル部員の私も、何らかの形で、心を山小屋に、クラブに残しているのです。…言葉詰まって書けず。只、小キジをうちに行ったときの夜空に輝く星は遠いけれど美しかった。…復た、山小屋を使用させて下さい。

(4年元12期 松永)

(注)小屋に置いてあった焼酎を茶碗で4杯飲みすぎ。文章、支離滅裂、ゴカンペン。帰去来。

松永と二人で焼酎を飲む。道夫は稲刈りに下りるといってもう寝た。みな、もう、寝るようである。とうに12時を過ぎている。明日は帰らねばならない。外に出ると星が美しい。明日は冷え込むかもしれない。今年はやって来るのが少し遅かったようだ。今まで毎年欠かさず、10月中旬にやって来ていたのだが。例年のように、別世界に迷い込んだかと思うような紅葉は見られなかったけれど、落ち葉が始まった季節というのは、しっとりとした落ち着きがある。葉を落とした梢ごしに青空を見上げる時、ひんやりとした風に吹かれる時、斜に差し込んでくる日差しに、暖かさとも明るさを感じる時、この上ない落ち着きを感じる。

自分はなぜ、こんなことしか書かないのかと不思議に思えてくる。自分が最も言いたいのは、こんなことで

はない。自分にとって、サークルが既に存在しないものになっているのなら、なぜそうなのか。それをどう再建するかが問題となる筈であるし、それはここに書く以上に、自分の日常生活で問い詰めなければならないことの筈である。また一方では、そのように何か積極的な活動をすることが、自分を最後まで、欺き通す様な事である ような感じがする。辞めていった松永と一緒に居て、複雑な気持である。何が真理なのか。そんな大きい問題ではないかもしれない。少なくとも、自分は何なのか。しかし”部外者”というのはあまりにも淋しい言葉ではないか。

私はやる気さえ起こせばワングルにとっては有益な人間かもしれない。しかし、私にとってワングルは如何なるものであるかは、現在、はなはだ疑問である。何かやればそれだけ、損をした様な気持にさせるのが、今のワングルのような気がしてならない。教えてやって損をしたとか、やって損をしたとか、その様な気持になってしまう。損とか得とかいったこと以前の問題としての、人間同志のつながりが無い。

むしろ私は、ここでカーッと怒るべきかもしれない。怒りをこらえることは立派な事である。しかし、度々怒りを抑えた事によって、怒りを感じずべき時に、怒りを感じなくなっていたとしたら、その時に怒らなかったからと言って、立派とは言えない。今ここで、怒らないことが、現状に対して妥協している自分をそっと放っておくことである という気がする。

もうみんな本当に寝るようです。ヌ！そうでもないような感じ。起きてきてラーメンを作るらしい。ああシラケター。アタシャもう寝ます。おやすみなさい。

4年 12th 山川隆

昭和 46年 10月 24日(日)

<全員下山> 雨

今日 帰ります。外はガスっていて雨がシトシト降っています。ただいま、床にワックスをかけて、山小屋を大体片づけ終わったところです。もう、この次に来る時には、雪が積もっているでしょうから、山川園は、もう卒業してしまった後でないと見られないでしょう。収穫できなかったのが残念で～す。

このごろ、井上さんとか森さんとか があまり山小屋に来なくなったようですね。結婚すると忙しいのかな。この次山小屋へ入る人へ!!

①食料がだいぶ余りました。我々に感謝して食べて下さい。

②コタツセットは、コタツの所にまとめておきました。コタツの脚を支える台は中に入っていますから、それを中の柱にのせてから使って下さい。穴を塞いである板をコタツの上に乗せれば、丁度良い台になります。

③ドテカボチャを1ヶ、シブタニ橋の脇で見つけました。米櫃の上にありますから、食べたい人はどうぞ。外は相変わらず雨が降っています。もう1時半を過ぎました。もうそろそろ帰らなければなりません。今年もまた、たくさんキノコが採れました。

4年 12th 山川隆

昭和 46年 10月 31日(日)

<吉田、宇佐川(真夜中入山)> 雨

今日一人で山小屋に来ました。来る時は不安だったけど、ここに入ったとたん、何か親近感を感じ、安心しました。朝食を食って散歩に出たとたん、雨になり、今(9pm)まで降り続いています。やっぱり山小屋は少人数で来るべきです。一人で居るのに全然寂しくありません。今日は山小屋点検に来たので、ストーブの点検や、石油を入れたり、その他もろもろ、1日中小屋に閉じこもっていました。明日は、宇佐川さんが入り、少しは賑やかになるでしょう。…と思ったら、真夜中の12時頃、大きな声で「吉田」と呼んで入ってきた。

2年 14th 吉田忠

昭和 46年 11月 1日(月)

昨夜半、一人で林道を登ってきた。山小屋到着は12pm。ドアを開けて吉田を呼んだが眠そうな声で「ハ〜イ」。起こすのも悪いと思い、シズシズ(ドンドン)二階に行って寝る。

今朝は、8時頃目が覚め、吉田の朝飯で生気づく。午前中に石炭ストーブの上に金網を取り付け、昼から薪運び等の仕事をして、キノコを採りに行った。雲が小屋の回りにチョコチョコとあって感じがいい。妙高山は青空の中にドカーと鎮圧している。明日早朝引き揚げるつもり。

3年 13th 宇佐川文恵

昭和 46年 11月 2日(火)

<出小屋:宇佐川(早朝帰)>快晴

今日6時頃バタバタと宇佐川さんが出ていったので、少し寂しくなる。仕事は昨日終えてしまったので、今日は全くすることが無くなってしまった。仕方ないので、午前中はナタで木刀を作り、それを振り回していた。午後からローソクとトイレトペーパーとマッチの買い出しに出かけた。煙突の掃除道具も買ってきてくれとの事だったけど、タワシで作れると思ったから買わなかった。しかし、作るのを忘れた。

このごろ、いろいろと悩んでいるので、一人で山小屋

に来てよかったと思う。とかく悩んでいる時は、一人で居たいものである。石油ストーブの点きが全部よくなく、夜はフトンの中に入っているのだけど、煙草をすう為に出した手が冷たく、吐く息も白い、相当寒い。昨日、石炭ストーブを点けてみたが、ある程度の石炭が、一瞬のうちに燃え尽きてしまった、この分だと、相当石炭を使うのではないかと思う。やっぱり大きな山小屋に一人で居ると、寂しく、時々ラジオをかけ、マンガを読み、適当に気を紛らわす。小キジのために外に出ると、満月を少し過ぎた位の月が出ていて、中でウサギが餅をついている。そのため、何にも光りを点けずに山に登れるぐらい明るい。月の光を再認識した。

2年 14th 吉田忠

昭和 46年 11月 3日(水)

今日、横浜に帰ります。キノコが採れなかったのが残念です。

2年 14th 吉田忠

昭和 46年 11月 21日(日)

<入小屋:桜井(11)>

<立ち寄り:高橋・桜井・榎本(12)冬山偵察、23日入小屋予定> 快晴

昨晚、上野を毎度おなじみの22:59で出発してきました。列車は想像していたより空いていた。長野を過ぎたら、列車1台につき4,5名程度、ゆっくりと寝て来られました。杉野沢の岡田サン宅で朝食を食べ、10時頃岡田サンの所を出て、ノンビリと歩いて、山小屋に着いたのが午後1時です。小屋に入って紅茶などを飲んでいたら、外に人声が致しました。一体誰が来たのかと思って入り口を見張っていたら、そこに顔を出したのは野田君でございました。随分久しぶりに逢いました。5月頃会ったきりで、大学祭にも来なかったので、どうしているかと思っていたのでした。今は山川氏考案のコタツに入っています。ホカホカと暖かく最高です。

OB11期 Ken 桜井謙一

数えて実に20回目の山小屋行である。我々3人は冬山偵察を兼ね、火打山へ登ります。よろしく。23日には山小屋へ帰って来ます。

OB11th 高橋秀雄

同じく今日、山小屋へ入った。初めは一人で来る予定であったが、(高橋、桜井両氏は最初の予定では、雨飾から金山、焼山、火打を経て来る計画であったらしい

が、雪と装備、その他諸々の問題でやめたそうだ。桜井さんの体ももたないという予想か?) 両氏と計3名で来ました。夏合宿の後、佐渡へ行き、帰りに寄った時はみんなで山小屋の整備をやったが、今、山小屋に来てみると、一段と山小屋らしい感じになっている。11月末頃には、妙高山も頂上付近は雪にベトリ、という予想でいたら、予想に反しチョコチョコであった。つい最近、20cmぐらい降ったそうで、山小屋の脇に雪が少し残っていた。この次来るとき(多分12月末)には、一面の銀世界で1m以上の雪に埋まっていることであろう。{もしかしたら、今年の正月は雪が少ないではないかと岡田さんが心配していたが}。

4年12th 榎本吉夫

昭和46年11月22日(月)

岡田さんのところで朝食をごちそうになった。のり、野沢菜、芋の炒めたもの、ナメコ汁。今年は米の味が悪いそうだ。年々、杉野沢も変わっていく。学校の入り口の所に駐車場、民宿変じて旅館に。スキー場には新しく、食堂。山小屋の周りには何かしら異様な気配が漂っている。三本木のあたりを散歩して驚いてしまった。林道というかブルドーザーで道を切り開いている。至る所。

OB11th 野田一夫

昨日は満天の星空であった。一夜明けると外は銀世界。サブザックで黒沢のあたりまで偵察に出かける。時刻は8:50

OB11期 Ken 桜井謙一

雪。音もなく降る。音がしたら雪でない。しらかばの林。もう散ってしまった唐松。土、道、みんな雪で白くなった。そして、そして、昨日まで車、人が通っていたわが物顔で通っていた道を、今日はおそるおそる車が下っていた。この山小屋は、俺達は、ここで、実に”山”のものになった。

カクテルの作り方。ただいま、飲んでいるノダ、野田も居るノダ。

① みかん一房、レモン汁少々、砂糖小さじ一杯、焼酎100cc、よくかき回す。飲んで見ろ。うまいノダ。なあノダ。これからこのカクテルの名前を考えるのだ!これから名前を書くので、適当に選んでください。

- 1, ニッコウキスゲ
- 2, ユキワリソウ
- 3, シナノキンバイ
- 4, S.O.L
- 5, L.S.O
- 6, タンポポ

- 7, ゆずチュー
- 8, レモンチュー
- 9, オレンジチュー
- 10,フレッシュチュー
- 11,感動チュー
- 12, チュー花(水中花より)
- 13,チューガッコウ
- 14,モウヤメタ

人間、飲むものが無くなるとよくまあ考えるものだ。大体 ショーチューベースのカクテルなんぞ、聞いたことないもんね。野田君、盛んにのっけていて、ショーチュー最後の一本飲むんだと頑張っている。ショーチュー全て飲んで行くのだ。こんど来る奴 ショーチュー無いぞ、ザマーミロ!!ショーチュー!バンザーイ!

②いいか、それでよ。ミカンが無くなったら、リンゴを刻め。よく潰し、ミカンの絞ったカスといっしょにショウチューを入れろ。一種独特の味。ああ!いいのだ。砂糖は入れるな。しょうちゅうばんざい。ごまあみろ。よっているのだ。みなさーん、色々なカクテルを考えましょう!何百種類と作って山小屋にカクテルコーナー作ろうよ。

OB11期 Ken 桜井謙一

③ミカンドラ (野田も飲んでる)

砂糖小さじ3杯、みかんの皮 手でつぶす 少々干ダラをつける、しょうちゅう茶碗一杯。 なかなかいけるのだ、なのだ、いけるのだ、しつっこいのだ。その他レモン・ミカンの皮、リンゴの皮、芯、お茶、いろいろ試してみるとよい。

くだらないことで、頁をつぶすのだ。山小屋日記はこうしてなくなって行くのだ。ウッシッシッシッ! 現在3:00am 11/23です。ショーチュー2本あげました、5人で2本です。ショーチューてうまいね。これから夜食を食べようというのです。野田君のってます。榎本君もいい気分です。高橋もよってます。とうぜん私もよってます。いい気持、こんないい気分で酒が飲めるのは久しぶりです。今年正月来るときは、ショーチューとミカンとレモンと干ダラを持ってくるのだ。再び ショーチューバンザーイ!

OB11期 Ken 桜井謙一

これより野田君、タバコが無くなったので、紅茶のタバコを吸うところです。香りがよいと言ってます。なかなかうまいそうです。可能性の追求をしましょう。

OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年11月23日(火)

快晴 午前7:40

昨日の晩より今まで飲んでます。今もショーチューを野田と飲んでいるのです。よくまあ飲んだものです。山小屋に残っていたショーチュー4本 完全にカラにしちゃうよ。今日はよっぱらってどこにも行かないですごそう。外は一面の銀世界、朝日にあたって雪がキラキラ光り すばらしくキレイ。実にいいのだ。山小屋に入る時は雪は無く、小屋に入ってから雪、とは全く我々についていると言うべきか。それとも？ とにかく、雪見酒はいいねー。いまもまだヨッパラッテマース。

OB11 期 Ken 桜井謙一

昨夜 9:00pm からショーチューを飲み続けています。現在 7:45am です。よく飲んだものです。今日はこれから下山します。とてもよい気持です。もう一日泊りたい所ですが、重要な会議が待っています。帰らせてもらいます！小屋に入った時は快晴でした。今日もまた快晴です。昨日は朝から雪が降っていました。「要」まで行ってみました。雪は 20 cm 積もっていました。まだ酔っています。これから下るのです。なんとかなるでしょう。それでは皆様さようなら！

(記 Noda 11 期です)

OB11th 野田一夫

酒宴の後。コップ、茶碗が並び、空いた一升ビンがころがる。空白。白々しい。むなしい。目がいたい。空がまぶしく。雪がいたい。寒い、ゾクゾク…いや暖かい。冷たいのだ。

踏み跡。ラッセル。黒沢。水があたたかかった。何も無く。紅茶も砂糖も何もない。お湯 いや紅茶を飲んだ。パンを食べた。時々、風と共に雪が舞った。まだ酔ったまま帰っていった。陽気に、ガサッと。五月の頃は、まだそんなでもなかったのに、今は少し社会人。

腹がへった。みんな2階で寝ている。しかし、へった。しかし、この山小屋、こじんまり、所帯じみた感じ。住み良くなったのか、このこたつ、やはり、しかし、よくやるよ。まさか。ムムー。おかげで暖かい。また2,3人、いや4,5人で来たい。この小屋一年生、おれ、五年、責任が無いのか、言いつばなし、やりつばなし。3年は大変だな。よくやる。やらなければならないから、やる。しかし、まだまだ無我夢中、アアアア、うらやましい。おれにもそんな時があったのか。気分を変えて。腹がへった。どうでもいいけど、みんな起きる。早く飯を作ろうよ。背中と腹の皮がくっつく。人間、飯を食わなくても生きていける。そう、仙人の心境だな。これでいこう。手が冷たい。しかし、しかし、腹がへったのだ。音も出ない。無理すると下からでてしまう。飯はどうやって作るのか。忘れてしまった。忘れる、いいなあ。みんな忘れよう。何かか

も。しかし腹はへった。この辺が仙人と凡人の違いなのか。そうなのだ。野田は帰っていった。又、今度来ると約して。

OB11th 高橋秀雄

寝て書き、起きて書き、座って書き、立って書き、おまけに逆立ちして書けなかった。外はト快晴、しかし日光は暖かくない。下の雪を溶かそう溶かそうとしているから、おれなど暖める事をしない。日光。Sun。しょうちゅう。しかし、昨日はよく飲んでしまった。今は酔っていないよ。ただただ腹がへった。今は、腹の虫が押しつぶされた様に泣いた。もうそろそろ、怒鳴り出すか。イライラしてきた。しかし、どうでもいいのだ。仙人思想。バカ、バカ、しょせん腹はへっているのだ。食べなければならない。死んでしまう。ここで食べなければ、よそへ行って食べるだけ。よそへ行けないから、ここでゴソゴソやる。カレーライス、ビフテキ、おみおつけ。キャベツ、トマト。スープ、さしみ。すし。天ろくずし。あそこの寿司うまくないよ。手がしびれてしまった。とんかつ定食、ご飯とキャベツ食べ放題。いつか、四杯も食べてしまった。さすが。ああああっあーあっあっ。腹がへった。みんな起きるまで書き続けよう。だいたい、一行書くのに1分。いや30秒。少し休んでポウーとする時もあるから、5行に一回、2分間の休み。この割で計算すると、だいたいの時間がわかると思う。それから、この鉛筆、シンが丸まってしまった。その鉛筆で今書いているのだ。よくできているよ。ふと、高尚な考えが浮かんだ。それも、腹がへっているから、すぐ消える。浮かんでは消える。アワ。アワ。しょせん、人間などアワなのだ。アワ、アワ、してしまう。愛。愛とは空洞なのか。横つらをぶつけられた感じ。うれしかったよ。そして……。ヒゲがのびた。いたい。鼻毛もものびた。髪の毛は例によってボサボサ、顔も洗わない。きたないな。キジもうちつばなし。おおーお、誰かが起きたかな。また寝てしまったようだ。がっかり。その分だけこのノートが消費されるのだ。オレが悪いのではないよ。

OB11th 高橋秀雄

ああ、オレなんかいつも、こんな感じで生きてきたのかな。オレは一人いい子で、悪いのはみんなあいつら。ははっは。オレが決めたんでなく、みんな運命なのだ。と、言いつつ、なんてバカげた人生なのか。ゲタゲタ。しかし今もそこから抜けだせないのだ。すべてがわからない。オレの気持ちも。責任。オレなんかどっかに飛んでいってしまうのか。カラスが「バカバカ」と言って飛んでいったよ。雪の中を。カラスもご苦労様。オレなんか、バカなんて言わなくても、わかっているよ。カラス、何故泣くの。しかし、そんな感じではな

いよ。お前が「バカバカ」と鳴くと、何かいやな気になるよ。バカだね。

そういえば鳥の鳴き声が聞こえない。チッチいつているのは、オレの頭であろう。これを耳鳴り と俗に言っている。今は 11 月末。みんな冬眠してしまったのだろう。へびに、カエルにクマ。クマはこわいなあ。しかし、鳥も冬眠するのだろうか。

ここでふと、エンピツを見る。あと 5mm 位でシンが無くなる。それまで起きてくれよな。何でもシンが無くなるといけないよ。字がきたない。きっと誰にも読んでもらえないだろう。しかし、読んでもつまらないな。腹が立つかな。腹が減ると、腹が立つことも忘れてしまうのよ。今度は肩が痛くなった。いたい。しかし、昔はスネなど机によくぶつけて、痛い思いをしたな。このごろ、イターイという感じがしないな。

OB11th 高橋秀雄

同じ事は、又起きるものだ。雨の中が雪の中に変わっただけ。同じ気分で同じように歩いたっけ。同じ、同じ。こう並べると良くないな。同じということは、変わらないということだ。停滞。ずうーと停滞。あの秋雨前線には参ったな。しかし、雨の中、テントをたたみ、ノコノコ傘をさし歩き出す。雨の中、ラジを点け、ミルクを温めつけたパンを口にする。雨は止まないそしてテンバに着く。雨の中テントを立てる。みなテントに入り、濡れたものを乾かす。ゴソゴソ食事を作り出す。食う。話す、そして雨の中 寝る。こんな山行だとすばらしく神経が太くなるだろうな。いやだ、いやだ。太陽が輝く。いいなあ。まだみんな起きないよ。汚い文と字が続くことになる。しかし小キジが撃ちたくなった。

外へ出た。太陽がいた。唐松の林の中に彼女は佇んでいた。そして、オレに向かって優しい光を投げしてくれた。太陽は男かな、女なのかな。ある時は男性で、ある時には女性。きっと日が出る時は女性であろう。これから出ますよと山の上を赤くし、そして一番良く光るところから、山の裾へ光を出す。淡い光だ。そしてその光線が集まった所にチョココンと顔を出す。初めは、ほんの少し、やがて 2 秒後、光を寄せ集めたように、ドウと、オレの方になげてくる。そうすると、目が痛くなり、まともに見られなくなる。そして全身が現れる頃は、オレの足下の雪、唐松が赤く光る。妙高もアカイ。みんな赤くなる。

OB11th 高橋秀雄

もうきっと、午前中は終わってしまったよ。時間があったいな。と言いつつ書き続ける。本当は書きつつ書き続ける。当たり前だな。おかしいね。このノート、きっと冬中はもたないよ。みんな書くね。しかし、もし今、みんなが起きなかったら、オレはずっと書き

続けなければならない。そうすると今日か明日、ああ、明日はもう帰るのか。今起こった心配は消えていった。よかったね。今度来る人は誰かな。そうか、一年生が来るのか。いいなあ。ここで叫んでみようかな。「腹がへった」と。誰か起きてるかな。みんなも減っている筈だよ。寝ていると紛れるのか。死人は減らないからな。遂にここへきて精神的安定を欠いてきたような感じだ。血液中の糖分が薄くなったからだよ。早く飯にしようよ。と言いながら、センベエというか味も素っ気も無い奴をポリポリやる。するとかえっていけない。もうだめだ。

もういやだ、いやだと頭を掻いた。よくやるよ。寒いのか。もういやだ。なんか 衰れになった。いやだねー。いやだよ。いや、わからない。わからない。わからない。何が線形か、足がしびれたようだ。ケツは痛い。このまま食べないとなんか、バッタリいきそうだな。いや、何もわからないから。わかった、わかったとわからない。いやだよ。

しかし、あの差し入れとかいうもののポリポリ食えないな。食えない奴。食わない奴。山ではあまり食わなければいい。足がしびれた。ジーンと痛い。快い。なんかいやだよ。しびれるとは、ジーンとした状態のを指す。血液を止めてるからいけないのだ。そうだな。もうやめた。

これから 10 分後に、お雑煮を食べられた。みんなあまり食べないので 4、5 杯も食べてしまった。ねむくなったよ。

OB11th タカハシ高橋秀雄

外はいいお天気、物音一つしていない。昨夜からの酒で、今日はまだ頭がボンヤリ、コタツに入っていると暖かく気持ちがいい。今日はなんだか非常にノンビリとした気持ちになっている。まるで今、春みたい、うらかな気分だ。10 時頃、野田が帰った。少々フラフラしながら帰っていった。今頃は列車の中でグウスカ寝てるだろう。みんな、コタツに入って、各々好きなことやっている。

OB11 期 Ken 桜井謙一

昨日の朝、起きてみたら一面の銀世界であった。前夜、雪でも降ってくれないかなという僕の願いがかなったのだ。20 cm ばかり積もって、まだ降り続いていた。そんな中を 3 人で笹ヶ峰、黒沢付近へ、冬山訓練の為の偵察に行った。湿った雪でシャツがすぐ、びしょびしょになった。小屋から 2h あまりで黒沢の橋に到着した。予定ではこの辺に幕営地を見つけることになっていた。5 月に来た頃は残雪が多く、今と大分感じが違っている。あの時スキーで滑ったコースには、けっこうブッシュ（と言っても高さ 2、3 cm、太さ 5~10 cm ぐらいの木）が出ていた。これが雪の下に埋まってい

たのだとはちょっと、考えられなかった。偵察は十二曲がりの上まで行った。雪は 30 cm くらい。五月にみんな転んだり滑ったりした斜面は、かなりのブッシュで、前に書いたのと同じような穂が群生している。その中をジグザグに夏道は登っている。冬は勿論、直登したほうが良いだろうが、12 月末頃では、どのくらい積雪があるか、かなり穂が出ているのではないかと感じた。高谷池へ行くので、問題になりそうなのはここまでの急登で、あとは尾根道、林間コースである。山小屋のコタツのぬくもりが恋しくなって、急いで引き返す。このくらいの積雪は始末が悪い。道に出ている木の枝や根が隠され、これに躓いたり滑ったり。黒沢に 15 分位で着いた。笹ヶ峰から歩いてきて、黒沢を渡り、少し登った所に冬、幕営地となりそうな所があった。(まだ相当、木が出ていたが、12 月末には埋まっていることだろう) また笹ヶ峰～黒沢間はどこでも幕営できる感じ。ずぶぬれで林道に戻る。五月の時も同じような気持で小屋に向かう。雪はまだ降り続いていた。この分では相当の積雪が、と期待していたら、池の峰を回った辺りで太陽が顔を出し、日が射し始めた。残念! 小屋に帰り、早速コタツに入り、ヌクヌク好い気持ちであった。その晩は野田さん達と焼酎を飲み、今に至る。さっき、食器洗いをしている、山川氏の名前入りのコップの取っ手を割ってしまった。ごめんなさいね。(コップが使えない訳ではないからあしからず) 今日はいい天気であった。しかし、我々は昨晚(今朝)の酒のために全員小屋の中でゴロゴロしている。さえない。ほんとう初冬という感じがしない。

4 年 12th 榎本吉夫

今日もまた、日が暮れた。コタツを囲み、ストーブをつけ、歌を歌う。山小屋はいい。そして今日も又焼酎を飲む。うまい。なぜ小屋はいいのか。何もしなくても、何をしても、小屋はいい。明日又横浜へ帰る。オレはこの小屋にもう泣きに来る事をやめよう。オレの頭の中はカラ。カラ。明日からはがんばろう。山小屋よ、四季それぞれの姿を見せてくれた。オレの小屋、そして彼等の。いつまでも。雪の中を歩いた。白樺の美しさ。太陽の光線が斜めに射すときの唐松。そして、唐松の散った葉の上をシトシトと歩く。歩く。すばらしい。妙高・黒姫、乙妻。みんな変わらずそこに立っている。オレもここに居るぞ。変わらないぞ。変わったぞ。何か訳が分からなくなってしまった。支離滅裂、いいのだ。いいでしょ。すいません。それでは今日もこれで、ボンヤリしてさようなら。(タカハシ)
7 時 5 分、ついに一滴のショウチュウもなくなった。みなさん、ごめんなさい。これからどうしよう。

OB11th 高橋秀雄

只今 0 時 50 分、今までトランプをしていた。今回の

山小屋行は、結局どこにも登らなかったと言ってもいいでしょう。でもやはり登らなかったのは残念な気がします。けれども、小屋で野田にも会えたり、新雪の上も歩いたし、半分満足、半分不満足、9 月、10 月、11 月と卒論の実験で忙しくていいかげん頭に来ていたので、山に行きたくて行きたくてたまらなかったし、その他にも色々理由があつて、いいかげん考えるのがいやになり、頭の中を空白にさせようとやって来たのです。しかしながら、1/4 成功、3/4 不成功。小屋に来て返って頭の中が、かえって混乱してしまったものもありました。まあいいや、とにかく明日は帰る日、横浜に帰ったら卒論の実験データの解析が待ってます。本当に頭の中の空白に、心の中も雪野原の様に真っ白にしたい。そうできたら素晴らしいことだけれど、人間生きている限り、何か悩みを持ち、何か考えながら生きていくんだろうね。どうも昨晚より今朝にかけてショーチュウの飲み過ぎで胃の調子がおかしい。酒飲み過ぎりゃ、おかしくなること、判っているんだけど止められない。バカみたい。このノート本当に書きたいこと書いているよ。書きたくなかったら書かないもんね。別に人に読んでもらってどうこうしようという積もりまるで無し。一方通行、しかし、面白いことに、人に見せない自分だけのノートには、かなり本当の、こんなところに書いていないことを書くけれど、山小屋日記に書くのは表面だけ、心の奥底は絶対書かないよ。やめーた、やめた、もうこんな事書くのはやめた。今日の夜空は曇っていて、先ほどは星がチラホラ輝いていたが、今は榎本の話によると、雪? (未確認情報) がチラチラと降ってきたとのこと。明日は雪かな。雪ってのは実にいいものだ。全ての音を消し去った世界、無音の世界を作る。その中に入っていくと全ての雑念が取り除かれるような気がする。無限なる世界を形作る。今まで形作ってきた有限な世界より無限の世界への入り口。それが雪、こんなこと書いていたら、きりが無い。山小屋に来ると、どうもロマンチックな気分が非常に色濃く出てしまう。そろそろ眠くなって来た。高橋、榎本共にもう寝ている。明日の朝は何時に起きるかな。適当でいいや。

OB11 期 Ken 桜井謙一

昭和 46 年 11 月 24 日(水)

高橋(11)・桜井(11)下山

昭和 46 年 11 月 28 日(日)

全般的に不景気一美しい字で書く気も起こらず一と、汚い字の言い訳を書くいやらしさ。一はたして明日は天気だろうか。隣の人はよく言うよ、それにこたえて、

今日は 28 日。いま地球にひとつの点が近づく、パー
ー！パチパチ タマヤー、何書いているんだ、オレは。
ああ眠い。でもさーこれでいいー。

第2話 どこに続くのか、あたいたち、寒いねえ、お
いらたちの行く末は右も左もなにも、上も下もないや、
新しい年→先に行くぜ、後から来い

4年 12th 榎本吉夫

昭和46年12月23日(木)

日中雪。

今日は岩船氏の邸宅から、つまり、新井から妙高高原までスイッチバックする列車に乗って、いざ山小屋へ。一昨日の晩から降り続く雪で列車の窓外は一面の銀世界。南国、九州育ちの僕にはまことに信じがたき光景です。

さて、駅から杉野沢行きバスに乗ろうとしたところ、なんとなんと、川中島交通はスト決行中。やっぱり、こんなにのんびりした所でも労働者は労働者なんですね。致し方なくタクシーで来たが、料金は¥670でした。道路の両脇には雪が堆くたまっていて、道路も雪で舗装されていて、無雪期よりも快適。

岡田さん宅で鍵を借りて、リフトの所まで歩いて行くのに もうハーハー。リフトの所で、スキーを着けて杉野沢リフトに乗る。去年はザックを背負ってリフトに乗って何人が落ちた、なんて聞いていたので、ちと心配であったが、まあどうにか、第1リフトに乗り継ぎ、第2リフトへ。杉野沢に着いた頃から再び雪が降り始めて、第2リフトを降りた時も、ずーと降り続けている。一面、ガスもかかって視界がきかない。僕と岩船 一年同士、勿論冬の山小屋は初めて、さあどちらへ行ったらいいのか、夏の記憶を頼りに、まあ適当な方向に降りていったら、あらうれしやうれし、国大ゲレンデの所の道路に出ました。道路に出るまでは、本当に山小屋へ行けるかどうか不安で仕方がなかったが、どうにかそれで一安心。そこからは、よく見覚えのあるはずの所を(雪が積もって道も何もあったもんじゃない。見えるのは裸の木と雪野原のみ)通って、やっと山小屋に着いたときは実際、ホッとした。1:20でした。

積雪は1m20cmくらいで、小屋も大分埋まった感じだが、入口や薪、プロパンなどは健在。鍵を開けてまず目についたのが、小麦粉と麦茶が散らかっていること。ネズミの仕業だ。誰か先に小屋に来てないかという期待も破れて、ちょっとガックリ。女の子でも居れば、なんて思っていたのだが甘かった。まずは石炭ストーブを点けようとしたが、これに一苦勞。岩船氏の考案による、ガスによる着火で解決した。さて、次は食料の点検。まずは酒。なに、無いではないか。やっぱり買ってくるべきだった。大体凶々しいよね、山小屋の備品の酒を飲もうなんて。他の食料は、まあ揃っている。という本人の僕自身、あまり食料を持ってこず、山小屋のを当てにしていたものだから。

昼食を食って、さてどうしよう。スキーに行こうかしら、一まず井戸を探すことにする。しかし、1m以上の雪。何処がどこだかさっぱり判らない。造林小屋の先だったか手前だったか。こんな木があったような気もするが。…なんて、勝手なことを言って、まあこ

んな所だろう、と言ってそこ掘れワンワン。なんとまあ、井戸の蓋が見えるではないか。日頃の行いが良いせいとか、こんな時は運がいいねえ。こんなを2回も3回もやる気しないもんね。井戸は凍っているかと思っていたら、さにあらず。食事用のバケツの水なんか20cm近く凍っているんだからねえ。とにかく今日は運が良かった。

さて、時は亥の刻。雪はずーと降っている。今日はスキーはやめにするにことにした。ところで何をやる。ひまだねえ。マージャンでも習いたいところだが、パイもコーチもない。結局食うより他にすることもないのだが、まだ腹も減らない。キジをしたって そう時間はかからないし。ひまですね。

石炭ストーブ全然あつたかくない。そこで、その道の経験者 岩船氏の登場。たちまちゴーゴーいいだして、アツカーイ。暖かいのは良いことだ。異議のある人はありませんね。明日になると、ゴソッと人が多くなって、ストーブのそばでゆっくり暖まれないだろうからね。フトンも豊富には使えないだろう。

さて、時は移って夜。コッテリ煮たてたカレーを食いデザートには先人の残していつてくださった、みつ豆の缶詰を、アスの為今日、敢えて食う。ひまですね。もし、万が一にも、これを読んでいたら、あなたも本当にひまなんですね。まったく酒を買ってこなかったのは残念である。

さてさて、しつこく、もう少しインクとノートを浪費させて戴く。明日、冬山訓練のご一同様はお出でになるのかしらん。とにかく、僕も岩船につきあって、杉野沢まで転げ落ちることにしよう。 §この冬、山小屋に岩船氏と一緒に一番乗りして喜んでいる単細胞田中 §

まったく、この日記に不愉快な2ページ半をつくって申し訳ない。何と言ってもヒマで、やる事がなくてしょうがないんです。わかるでしょ。この気持ち。ねっ あなた。

1年15th 田中武憲

ストーブがよく燃えている。しかしやはり深夜(11:45pm)は冷え込みが厳しいようだ。今回で山小屋へ来たのは6回目である。でも一面銀世界であり、その上ガスつてるとなると さすがに不安も感じたが、幸いにも迷わず最短距離で来れたようだ。

井戸掘りは完全装備で出かけた(オーバーズボン、ヤッケ、シューズ)。新雪が一面に広がっている。思わず大の字に横になり、一言「ユキ ハ ツメタカッタ」。(意味深です)

夜は本当にすることがない。しかし…ア、今午前0時で、今日はクリスマス・イブ。そういえば去年は…一去年は…ダメですね。人間は過去の思い出に流れるほど暇だということは、明日 いえ本日は朝の7時に

小屋を出て、杉野沢まで歓迎のお出迎えです。そろそろ眠ろうと思います。それにしても みんなはリフトに乗るんだらうね。まさか 林間コースを歩くなんて、そんなことは無いようにと祈りながら眠ることにします。オヤスミナサイ

1年15th 岩船芳人

昭和46年12月24日(金)

<冬山訓練本隊11名《高木(14)、小口(14)、鈴木(14)、赤松(13)、下田(14)、小泉(15)、加納(15)、山川(12)》入山>

今日は冬山訓練の本隊10名および丁稚奉公の高木の計11名でやって来た。上野を22:59に乗ったわけだけれども、毎度の様に、今回も乗り合わせたスキー客がうるさくて、うるさくてみんなよく眠れなかったようだ。オレなんか腕を足でけつとばされたもんね。

杉野沢でオーバーシューズを着けている時、馴れ馴れしい犬がいて、小口のシールをくわえて逃げ回ったり、オレのワカンをかじったり ひどい目にあつた。ここで少し、スキーにシールを着けて歩く練習をした後 歩き出した。みんな36~38kgぐらい背負っていただろう。1年なんかは夏の歩荷よりも重い。しかもトップがやたらと飛ばすし、慣れないスキーかなんかはいちゃって参った参った。途中で頭の上をゆくリフトの恨めしかったこと、その周りを一足先にリフトで上がった高木と岩船と田中がスイスイゴロゴロと、まるで蝶の如く豚の如く滑っている。聞くところによると田中大先輩は昨日の朝までは、スキーを履いて立つことができなかつたそうだ。丸1日であれくらい上手になろうとは、田中がよっぽど運動神経が発達しているか、スキーがよっぽど易しいか知らないけれど、オレもひょっとしたら滑れるんじゃないかと希望が持てた。

途中で京大の連中が、同じような格好をして追いついて来た。荷は少し小さかった。五八木で11:00頃だったから、この先ご苦労様です。12:30頃 小屋に着いて紅茶を飲んで一休みしてから、国大ゲレンデでスキー訓練をする。と言っても されるのはオレと小泉と加納だけ。シールをはずしたスキーの滑ること、1hour程やったが、ボーゲンがどうしても真っ直ぐ進まない。聞く所によると明日は、もうリフトに乗ってジャンジャン滑るそうなので、おそろしや。

夜、村松さんからの差し入れのケーキ(デコレーション直径15cm位、高さ8cm程)を食べる。岩船が下から持ってきたのだが、途中で転んで放り投げたので、メチャクチャ、ウェハースの家をチョコレートのカンバンだけは健在であった。クリスマスイブ万歳。暇

にまかせて行った恋占いの結果をここに発表しますでやんす。

道夫… 大成功、進むべし

赤松氏…大不成功、当然といえば当然、最近では女には見切りをつけたらしく、今日はコタツの中で、岩船の手を握りしめようとした、ホモ開発中、注意すべし。

高木…やや不成功、いくらやってもだめだ、あきらめるべし。

2年14th SHIMODA 下田昭

昭和46年12月25日(土)

<入山12名《榎本(12)、西岡(12)、河野(12)》、西岡友人3名>、
<下山2名>

クリスマスです。ホワイトクリスマスです。人がたくさん、ざわざわしています。本日入った人、12人。出た人2人、計23人。昨日とまた違った感じ。人って不思議です。

新しいことを求めているようで、古いことにしがみついているようで、遠い空、この手の平にある雪

あの燃えている星 うらやましい、

美しく見えるから。ただただ やさしくみえるから、夢が燃えているのだ。

手が知らず知らずこぼしをつくる。手に力が入っている人間には笑いはない。そうで、でも笑いたい。

サンタ・クロース、Saint Clawes。大きな体、白いひげ、赤い服、大きな袋。

白い、うす白いろうそく

何か炎がみえる、求めているものがみえる、手をさしのべて顔を見すえて。

Ryo

新しい年がくるのにさ

あたいたちには ちっとも楽しいことなんか ありやしない

ここは山小屋番外地、どうすりゃいいのさ あたいたち

やることはすべてした All has done.

そんつぎ何さ、汚い字だね、

白けたね、白けないよ 沈黙は青の世界。

そこに七色のヒダが走る チューリップが開く

光が走る あ入った入ったジャラジャラジャラ~

この子は光が好きだ一何とかいえーいえったってよ

オー

ゴォ~~~~

全般的な不景気

売りヤス 買い高、今一回いくらかな

きまったぜ ナターシャ

4年 12th 榎本吉夫

山小屋日記 イロガミページ

きょうもまたよい天気です。雪が少なくてこまってしまう。スキー場もブッシュがだいぶ出てきました。きょうあたり、スキー場のスミの方には、いくつか冬テンがたちはじめました。

また山小屋に来てしまった。これだけ人数が多いと、雑然としていて実に居心地が悪い。なぜかたびれてしまった。コタツですぐに居眠りがでる。ウスボンヤリとして、寝ているのか、覚めているのか判らない状態で、ザワザワした騒ぎを聞いている。4年にして初めて味わえる心境か。何もやることがない。顔がヒリヒリする。外は星が美しいらしいです。私は寒いから外には出ない。青木と谷島がケーキとパンを作ってくれた。それから松瀬がケーキを差し入れてくれた。昨夜とは違った雰囲気になった。何も書くことが無い。今日書いていることは散漫である。でも書くぞー。

今日、榎本・西岡・河野が入ってきた。4年生は4人になった。去年とはだいぶ違う。外が暖かいせい、小屋の内の気温もガンガン上がる。さっき17℃。今はもっと暖かいかもしれない。

時代は変わった。つくづくそう感じる。そう感じるの、下半身コタツに入って、背中からストーブあたっているせいではない。

明日の晩はもう コタツにはあたれない。キビシイキビシイ、でもヤルンダモンネー。ヤルキムンムン。天気が少しくずれてきそう。やはり今日はあまり書く気がしない。でも、もう1ページ以上書いている。こんなことを書いて、ノートをつぶすのはもったいない。もうやめましょう。おやすみなさい。

4年 12th 山川隆

昭和 46年 12月 26日 (日)

<桜井(11)・友人1名、日渡(9)入山>、
<青木(15)・谷島(15)・川端(15)五八木荘手伝い下山>

初めの言葉は何でしょうか。今年雪が少ない。(こんな書き方はうそ…)。十二月は、一雪ごとに、積もっていくのかな。昨日の夜は雨が降っていました。今日は、時々小雨、霧、冬山の人、完全装備とかで練習にでかけました。青木・谷島・川端は、五八木荘の手伝いに降りました。今日また何人か入る予定です。冬山は、今日は、テント生活だそうです。

今は 少々言語障害という感じ、また書きます。膝の筋を傷めた中島さんは、スキーの手入れに忙しい。

昭和 46年 12月 27日 (月)

<冬山訓練 14名テント生活へ出発、西井・曾根原(14)、北村入山>

バカ・バカ・バカ・勝手にしろ！

冬山訓練の 14名、6:30 元気に出発。一人残される。この一ヶ月 冬山の準備にかかりっきりだったのに、最後の段階にて挫折とは、頭に来る。皆スキーをやりに行ったので小屋に一人。コタツに入って、出来もしないギターを弾いている。あーあー。諦めようとするがなかなか諦めきれない。そりゃそうだよ。せつかくここまでやって来たんだもん。外は雨。皆 寒いだろうな。頑張れよ。我慢できなくなり、小屋の外に出て、ちらっと滑ってみる。二度 小屋の前を 5m ほど滑って 二度とも転んだ。足の痛みは我慢できないこともない。明日はスキーをやるぞ。

1年 15th 中島 一夫

午後、昼食が終わって皆 又スキーに行きました。小屋にはスキーが壊れて残った桜井さんの友人二人、コタツに入っています。暇で、退屈でしょうがないので、又 書かせてください。ロングスパッツでも着けて、展望台まで行ってみようと思ったが、桜井さんに止められる。こっそり行こうと思えば行けないこともないのだが、明日のために今日は静かにしていることにする。「明日のために」、今の自分にとっては耐え難い言葉だ。明日生きている保証を誰がしてくれる。生きている事が確かなのは、今しか無い。やってみたい事をやれるのも、今しか無いかもしれない。捻挫ぐらい気にせず、冬山についていくべきではなかったのか。皆の足手間といになる。そう、自分の我を通せば他人が窮屈な思いをする、俺も年寄りになった。いやだぞ。猪突猛進、わき目もふらずやってみよう。あーあ、やっぱり白ける。健康の有難味がわかる。白けたので このあたりでやめます。

1年 15th 中島 一夫

昭和 46年 12月 28日 (火)

<狩野(14)、牛窪(15)、榊原(11)入山>、
<萩生田(15)、日渡(9)、下山>

9:00am

12月に入って急に思い立ちスキーをしに山小屋に入りたくなった。山小屋には現役が入っているとのこと、チャンスである。12月 25日夜行で上野を発った。

12月 26日は朝から雨、雪国に来て雨の準備が必要だったとは。山小屋で現役達の中に入ってみると、4年ぶり程に味わった、何とも言えぬ落ち着いた雰囲

気になってきた。この様な気分は会社では味わえぬ気持だ。

12月27日、朝から雨、午後から雪。どうも天候には恵まれていない感じがしてきた。1日中スキーをしていたが、どうもうまくならない。これは先天性なものとおそらく、長期計画で上達を計ることにした。

12月28日、雪、昨日からの雪が降って50cm以上、今日は下山しなければならぬ。しかし、帰りたく無くなってきた。宮任いの辛さ、どうしても帰らねばならぬ。山小屋は思っていた以上に住み心地が良い。何もしなくても食事は取れるし、掘りごたつは有るし、これでスキーがうまかったら！

天候には恵まれはしなかったが、都会で疲れた神経を癒すには最高の場所であった。現役達に感謝いたします。又、機会を見つけ出来るだけ来ようと思っております。居れば居るほど居心地が良くなって 帰るのがいやになってきた。今、昼帰るか夜行で帰るか悩んでいます。

Dec. 28-'71 OB9th Hiwat. 日渡 松男

11:50am 一昨日の夕刻、友人と二人で小屋に入って参りました。入った日は雨がしとしと日曜日 という具合。小屋には冬山の連中が入っていて、その騒がしいことって言ったら まずひどいものでした。昨日 冬山の奴等が居なくなって山小屋はキレイになり感じが良くなった。昨日、西井・曾根原・左藤・北村(*)を迎えに杉野沢に下った。背負子をしょっていったら、後に倒れた時に丁度首に当たり、むち打ち症になってしまった。おかげで今日も、依然として首が痛い。下に降りたついでに七輪と練炭を買ってきた。コタツも遂に本格的になりました。あったかいぞー。この七輪および練炭は日渡さん(9期)が寄付してくれたものです。感謝いたします。今日は今日で朝の7時に起きて、朝飯も食わずに、柳原・加納・牛窪を迎えに杉野沢まで飛び出して行った。おかげで腹が減って仕方がない。助けてー！

OB11th Ken 桜井謙一

(うそです。ちゃんと、紅茶にパン バター付 の朝食を用意しましたし、食べてゆきました。山)

萩生田さん、下山。2日にまた入るとのこと。西岡さんの友達3人と。日渡さん下山、結局夜行になってしまった。お元気で。

今日のお昼は、コタツに14人入りました。夜は12人、残りの6人はストーブのまわりです。今日入った人達も寒い寒いと連発、何とか暖かくする方法は無いものかしら、あとはあかり、ランプを何とか手に入れよう。

今日も一日吹雪いていました。ガスも出ていました。一瞬太陽が顔を出してくれたこともありましたが。ス

キーの方は、うまくなったか、下手になったか、昔とあんまり変化がありません。毎日、皆と、国大のグレンデで練習しています。直滑降・ボーゲン・斜滑降・横滑りその外いろいろなことをして、ずべています。皆、進歩がとても速い。

2年 14th 山/井とし子

昭和46年12月29日(水)

<鶴飼・吉田・赤松・加納・岩船冬山より戻り入小屋>、
<工藤友人柳井入山、西岡・その友人3名と五八木へ泊>

西岡さんと友達計4人、岡田さんの所に泊まりに行く。冬山、鶴飼・吉田・赤松・加納・岩船下山。工藤さんの友達(ヤナイさん)入小屋、よって入小屋只今20人。昨年に較べるとかなりの人数が入っている。今日は何日振りかの快晴。リフトに揺られていると気持ちが良い。妙高・黒姫・野尻湖と美しい。

2年 14th 山/井とし子

昭和46年12月30日(木)

<池原(8)・その友人入小屋、冬山隊10人帰小屋>、
<鶴飼・赤松・加納・岩船・中島下山、佐々木(桜井友人)下山>、
<神(桜井友人)入山>

鶴飼・赤松・加納・岩船・中島下山、池原さん(8期)と友達、冬山の残り10人も無事に帰る。(小屋に)。今日からの山小屋は、30人ほどになる。気温が高いのか、暖かい。朝は快晴であったが、昼近くから、雨が降り始める。いやな天気だ。

2年 14th 山/井とし子

9人無事下山してきました。

初めの年に比べると、この山小屋も随分良くなった。「山小屋」と呼んでも 気兼ねしない。ストーブも燃えています。コタツもあります。流しもあります。二階もはいりました。しかし…

OB11th Ken 桜井謙一

やっと冬テンから解放されて、手足を伸ばせるようになりました。しかし、それほど沢山は伸ばせないようです。30人もこの小屋に居るから。11時頃山小屋に帰り着き、紅茶飲み放題、やかん2杯位飲んでしまったようです。しばらくすると雨が降り出し、ちょうど

お昼になって、スキーに行っていた人達がドヤドヤと帰ってきて、山小屋はあっという間に人であふれてしまいました。だけど冬テンよりは少しは暮らしやすいようです。明日は三田原山に行こうと思っている。4時起床などと言うと、残りの人達にぶっ飛ばされるのではないだろうか。去年は冬山訓練を終わって山小屋に帰ってきた時は誰も居なくて、ゆっくりと休めたのだけれど。どうやら今回は四面楚歌のようです。スキー講習会本隊が、2日に4人しか入ってこないというのに、一体、この混雑のしようは一体……。私はこの1週間、一体何をやってきたのか。とんでもないところで空回りしていたみたいだ。

山小屋に帰ってきて、即席ラーメンの中のピーマンの味に感激した。ビタミン剤よりは数段おいしい。

でも何となく気分が悪い。時代に取り残されてしまったような気がする。自分の大切にしていたものは、とっくの昔に壊れてしまっていたのか。

コタツもストーブも暖かい。肌を刺すような寒気は、ここまではやってこない。山小屋はやはり、人の住む場所のようになってきたみたいだ。しかし、しかしなのです。やはり、しかしなのです。これでいいのか。

- ・27日・雨。三本木あたりから降り出す。黒沢へ行く分岐から大粒の雪になる。びしょぬれで黒沢に着き、テントを張る。ひどい湿雪のため、冬テン水浸し。エアーマットプカプカ。
- ・28日・黒沢岳ピストン。富士見平少し手前で、少しルートを外す。稜線通しに行ったため。タイムリミットに引っかかり、あと少しで断念する。雪が降っている。京大山岳部に会った。
- ・29日・晴。下山。テント撤収に時間がかかる。ガリガリに凍り付き、おまけに新雪にすっぽりと埋まっている。北アルプスが美しい。林道の途中でWWVに会う。お互いに、あ、これでラッセルは終わりだ。笹ヶ峰の分岐で下山隊とわかる。駐車場売店でシュラフを干す。それから笹ヶ峰の三角点を目指す。全部、スキーで登る。雪がベトベトで、重くて苦勞する。頂上に9人の名前を書いた旗を立てる。
- ・30日。きょうのことなのです。笹ヶ峰から3ピッチ。2時間くらいで山小屋に帰り着いてしまったということなので一す。
- ・31日。どうにでもなれ。もう やるしかない。

4年12th 山川隆

午前中晴、午後になり雨。大体において天気は狂っている。冬に雨が降るなんて、冬は雪があるのが、当たり前なのだ。/今日、私の友人の佐々木が下山。その代わりに神が入ってきた。雨の中を濡れながら、杉野沢まで迎えに行く。

午前中は、昨山下山してきた冬山隊の4名(赤松・鶴飼・岩船・加納) + 中島を杉野沢まで送り出す。山

小屋より杉野沢まで2時間かかった。何と言っても大変なものでっす。

昨日、井戸のバケツの綱が壊れてしまった。後で修理しなければならない。

今日は やまごやの中、人間が多くてゴタゴタしている。もっとのんきに過ごすつもりで来たのだけれど残念ながらガヤガヤしている、なんたるちゃ。

OB11th Ken 桜井謙一

昭和46年12月31日(金)

<冬山隊三田原へ、河野・西岡友人・工藤友人下山>、
<稗田(11)入山>

今日で昭和46年も終わる。心につる想いは深い。山小屋、山小屋はいつもそこにある。入る人によってその姿を変える。人が多い。多いことが、すなわち悪いことではない。それなのに、山小屋、人それぞれそこに求めるものがある。山の延長として、都会の延長として、それでもここは、都会小屋ではない、山の小屋である。2日からスキー講習会。今日まで冬山合宿。昨年の大晦日はストーブの周りにやっと集まれるぐらいの人達だった。小屋は誰にでも解放されるべきものだけれど、そこに入るからには、と考えるのはいけないことでしょうか。

東京の生活を捨てて、ここに来てしまった。年賀状に向かっても、言葉が、心のある言葉があふれない。私を助けてくれた先生、もうかなりのお年になる。高校も昔と変わって、住み難いかもしれない。古い仲間も他に去り、淋しさを抱えているかもしれない。それでも、丸いめがねをかけて、青い背広を着て、顔を前に向け、ひょうひょうと歩いていらっしやるかもしれない。頑張ってください。法学部の夜学を終える彼女、これからの道は、厳しいかもしれない、しかし、どんな時も、移りゆく生活の中で、また立ち上がってほしい。サークルの仲間も、来年は4年になる。皆、それぞれの道を歩もうとしている。私もしっかりしなければ…。会社の仲間、みんなどうしているのかな、やめた人も多い。結婚した人もいる。私の山小屋…それは、心にしみじみくるくらし、共同体。

今日で何日になるのかな。今日は曾根原さんと西井さんと3人で妙高温泉に入りに行きます。昨日はもう、小屋に居たくなかったけれど、また、あまり考えずにいることにしました。何日も居ると、人の出入りがおもしろい。いろいろな人が現れ消えていく。小屋に居たくないけれど、東京にも行きたくない。こんな雪の中、自然の中に居たいから。正月は東京も青空が広がり、車や人も少なくなるのだけれど、でも私はここが

好き。今度頑張っ、笹ヶ峰の入口まで行こう。このままじゃ、あまりにも悲しいから。

今年はいろいろなことがありました、自分のまわりに。私は、今年は何をしたのか。何もしなかったかもしれない。しかし、これもまた私の生活だったのかもしれない。こんな時期があってもよい、そんな気もする。フランス語、ピアノ、落とすかもしれない、全然やらなかったから、それで通そうなんてことは、やめた方がよいかもしれない。

行動…私にはそれが無い、という人がいる。行動、それがどういうものかわからない。それでも私は、人を見る時、その人の行動…行為を考える。その人から滲み出るものをとらえる。

今日、冬山の人は、三田原に行きました。早く元気に帰ってきてください。そしたら山小屋で、ゆっくり過ごしましょう。

河野さん、西岡さんの友達2人、工藤さんの友達下山。

今日は大晦日、雪にかこまれ、いろいもの染みついてこの小屋で、ゆっくり過ごしましょうね。

曾根原さんが下で呼んでいる。早く支度をしていかなければ。

自分がしっかりしなければいけないんですね。流されず我が道を行く、でなければと、そうは思うのです。そうしなければと、でも…こんなこと言っているから、…

これだけの人が入ると。皆さん、気が付いたら小屋を整理整頓してください。使った物は必ず元に戻す。ゴミはゴミ入れに。食器類は空いたら流しに返し、気が付いたら洗っておく。私物は出来るだけ一カ所にザックの中にまた入れるように。何だか、そんな共同生活の最低の約束が、どこかにいってしまったような。

X2年 14th 山/井とし子

昭和47年1月1日(土)

<鈴木・下田下山>

1972年は、ポーとした頭の中からやってきた。いや、ポケットとしていたのはおれだけだ。昨日、三田原山へ登った。霧の中を出発、前のトップの姿はかすかに見え隠れしていた。ガサガサいう音だけが耳に快い。稜線に取り付く。トップが ガスが晴れた とわかった。しかし、おれが登ったときには、ガスっていた。時々ガスが切れ出した。空が現れだした。南国の海の色を思わせるような空だった。傾斜が緩くなり、目の前に妙高の姿が浮かび上がった。白馬・杓子・鐘・天狗・不帰の陰・唐松・剣・五龍・鹿島鐘・布引・爺が岳・***・鳴沢岳・赤沢岳・スバリ岳・鉢伏岳・蓮華岳・

槍ヶ岳・大喰岳・中岳・穂高連峰・大天井・燕・北には鉢が岳・雪倉岳・赤男岳・朝日岳・乗鞍・御岳・南アルプス・八ヶ岳・奥秩父・富士山・浅間山・志賀の山・そして その他の山。日本中の山が見えるようだ。そうだ、オレの家も見えたことを付け加えておこう。皆んな、どこかへ出かけていったようだ。コタツに足をつっこみ、紅茶が飲みたいと思いつつ、だらだらしている。昨日傷めた膝が、足を動かすと痛い。帰ろうか。スキーは出来るのか、などと思う。

OB11th 高橋秀雄

元旦。

12時前10分、小屋に居るのは、足を捻った高橋さんとぼく、靴づれの日野さん、カゼの榎本さん、一人元気な小泉の病人ばかり。外に出てった人には悪いけど とても良い。今は静かな、時間にとらわれない生活をしている。おもしろくない事も多いけど、それよりも良いことが多いはずだ。外では雨が、冬だというのに降り始めている。笹ヶ峰へ散歩に行った人はあわてているだろうな…。

昨日の昼頃まで、もうクラブをやめよう、かなり心を決めていたのに、またやめたくないって気持ちが強まってきた。もうどうでもいいと思ってたクラブ。どうして中途半端なクラブに、あれだけの人が残っているのかと、とても不思議だったけれども、いいなあと思いはじめた。1月6日までは小屋に居る予定だけど、小屋を出た後の自分の行動を、今考えている。ワングルっていうクラブはいいなあと思いだした再び。でも、それ以上に僕の心はクラブを離れている。ただの、普通やってきた山行などは好んでやるだろうけれども、その他のことはもう僕には、あまりにも絶望的*な感じがする。それ故に僕の心は離れてきたのです。*そんな奴がクラブに居ることは、今のクラブの状態を維持する、あるいは悪化することはできても、良い方向へは行かない。それに今、クラブの外のことで、そろそろ暇つぶしでない行動をやるうとしているから……。最初から、構成を考えずに思いつくまま書いているから、メチャメチャだな、作文0点。その外個人的なことで、大きな問題が2つ、全く困ったよ。一人ぼっちはいやだけど、優しい言葉はいらないさー。

(?)

道夫と下田が帰っていった。予定より1日早い。昨日、三田原初登頂。本日、池の峰第2登。山小屋から出発した積もりだったが、冬山訓練というのは、冬テンに居た連中が、ドヤドヤと山小屋に踏み込んできたようなものかもしれない。

9時就寝、4時起床なのに、山小屋は遅くまでうるさいかった。朝、5時半。うすぼんやりとした雪明かり。濃いガスの中を、見送る者もなく、山小屋を出発

する。雨がポツポツと顔にあたる。1時間も歩くと、明るくなった。ガスは相変わらず濃い。どこを歩いているのかさっぱりわからない。でも、これでいいのさ。山小屋に居たって、スキーをやっていたって、ますます頭に来るだけ。我々には、歩く足があった。これでカ一杯歩いてみるだけだ。それが もうワンゲルにとって何の意味も無いものだとしても、それで良いのだ。

やがてガスが晴れる。乙妻高妻、北アルプス。はては富士山まで見えた。三田原山はあまりにも美しすぎた。我が人生最良の日。

しかし、気分はすっきりしない。ますます悪い。悪い悪い。本当に悪い。明日になったら、私もさっさと帰ります。

4年 12th 山川隆

年が変わったからって、どうということはない。それはそうだ。まわりが変わる。年をとる。スキー場に出て、日の出を拝んだ。この年の平和と、自分のことを祈った。昨日見た妙高はきもちわるかった。山じゃなかった。何にもなかった。月明かりに浮かんだ山小屋も…。小屋に居たくない、入りたくない。でも寒い、身体の芯が冷えてくる。帰るところも、行く所もない。また全部投げ出して、(スキー合宿)小屋を出ていってしまおうか。

昨日、また涙がにじんでしまった。二階では、おいおい泣いてしまった。ワンゲルの皆といて、泣くのは二回目、L養と、今回、夏合宿は、明日のことを考えると涙すら流せなかった。昨日の山小屋、いいえ、この冬の山小屋は、一体何なのでしょう。

ある人が、いろいろ言っていたけれど、それを今言うなんて、ひどいことです。何故って、それは、それ以前にどうしなければならぬ問題なのに、それをそのままにしてきてしまった、それが現実になったからと言って、そこにいた人を責めるなんて、間違っています。問題は、ワンゲルに、今の機構そのものに、深く根ざしたことはないでしょうか。

皆、昨日は楽しかったかい

何を騒いでいるの、

何を話しているの、言葉言葉…

ただそれだけ…言葉。

私達 今まで何をしてきたのでしょうか。私達の行為は、何も無かったのでしょうか。私達のつながり(そう信じたもの)は、うそだった、いいえ、何も無かったのでしょうか。

ワンゲル、いつも むなしさが、

ドットおしよせてくる。

一体自分は、何故そこにいるのか、

事故のこと…

つながりなんて、何もないんですか。大晦日、私達はもっと心から話すことが、できたはずですよ。いや、

あったはずですよ。でも私は一体何をやってきたのか。口に出すけれど、それをいつも黙って見ている。でも今年二年の私に何が出来るのですか。そして、このワンゲルを こうだ と、やってしまっても良いのか。いつも、個人の自覚、意識あるのみ、それが高い時は充実するけれど、波長が合うと楽しいけれど、でも、いつもはドッチラケ。

私は単純に人を信じすぎるのか、その人の言うこと、行為をそのまま信じてはいけないのか。

皆 勝手だよ

言いたいこと そして

やりたいこと そして

それでも尚 人を責める

人を責めたって仕方がないじゃないか。その人をそうさせているもの、それを許したものは、自分の側—ワンゲル—にあるのじゃないか。貴方はそれに対して、一体何をした。

今のワンゲル：ある人は、自分だけがやっている。

やっていると、他人を責める。でも本当にそうなんですか。問題を公開していないんじゃないですか。皆で考えることをしていない。

そんなことを思ったけれど、それを口にだせなかった。自分は…今それを言ったって、言葉のぶつかりあり。自分がこれから、それらのことを解決できるのかどうか。それだけではないか。自分の行動のみが残されている。

でも一体自分は、ワンゲルに何を求めているのか。何をしたいと考えているのか。何も求めていない、何もしたくない。今のサークルの状態(機構—それを支えている個人の意識)を考えると、何もできないんじゃないかと思う。山小屋がある。だから、

でも今は、その山小屋も私の居る所ではない。人が帰っていく、淋しい、それだけなんですか。

小屋で2度目の正月、

朝日を受けて、気持ちよかった。

太陽に向かって、コトコト歩いて行ったら

太陽がだんだん沈んできた。

2年 14th 山/井とし子

《昭和47年1月1日記》

昨31日 1年ぶりに山小屋に入りました。この1年間で山小屋は随分立派になりとても嬉しくなりました。この1年間—私にとって恐らく生涯のうちで最も重要な時期の一つとなるだろう1年間—私の回りのもの全てが変わった様な気がします。学生から社会人に、この二つの世界は、私にとってあまりにも異質のものに感じられたのです。その内容がどうであれ、それは各人の感じ方の問題かと思しますので、ひとまず置いておきましょう。この4年間、私は大学生という身分であったのですが、自分が学生であることを、当然の

こととしか思っただけではなかった様でした。しかし今、会社に勤めるようになって、ふと考えるとき、又は、現場のオペレーターの人々と話すとき、自分の経験のすべてが、あまりに恵まれ過ぎていたことに気が付くのです。私は、学生時代、余りに多大な時間を浪費してしまったと思っています。言い換えれば、物事を為すに不活発であったと思われるのです。私はガムシャラでなかったし、かといってスマートに徹しきることもしませんでした。要するに、すべてに中途半端であった様な気がしているのです。私は「その時」を逃しても時間は、そのままのペースで流れ続けようと思っていたし、仮に社会に入ったとしても、自分だけはペースを掴んでゆけば良いのだ などと考えていた様です。ところが現在（私自身は時間的に自由な所にいたとしても）、時間はあっという間に過ぎてしまい、少なくとも、山には入ろうとしても、たかだか1日半のきゅうじつが得られるに過ぎず、しかも私は、またしても消極的になってしまっていて、山には入ることも無くなってしまったような有様です。又、勤め人はお金が有って学生はお金を持っていないなど、とんでもないこと。生活さえ安定したら良いと思って、ガムシャラに自分を駆り立てる様な気力を持ちたいものです。ワンゲルでの友達は仲間内。一般社会での友達はテキ(?)でしょうか。少なくとも私がまだ学生であった頃、仲間とは、腹の中をおちまけて話しても、又は、自分の全て手の内をさらけ出しても、構わず互いに、その人間を知ることの為に、腹の中をさらけ出そうとしていた(つもりであった)。今私の回りに居る人々は、互いに関わり合うことを避け、又は、自分の殻の中に入り込んでいる様な気がしているのです。私にとって、この事は物足りないことではあります。数日前、ワンゲルの仲間一人と話していたら、「お前はオレを知らないのだよ。(自分の事を言うのは)お前はまた子供なんだよ」と言っていました。また、今日山小屋日記を見ていたら、誰とでも親しくなりたいと思うことは若いということだ と言う様な意味の事が書いてあった様な気がします。私は今、考えているのですが、「おとな」というものは、自分の中に枠を作って、互いに表面的な信頼を作れば良いという人種なのでしょうか。

私は現在、両親とも、旧い仲間とも離れた土地に、独りで住んでいます。そんなところで自分の考えている事を知ってもらいたい、自分のやっていることを真にわかってもらいたいと考えること、或いは、知ってくれる、解ってくれる人が欲しいと思うのが子供で、ただ周りの人間とのつき合いを良くして、ひとりで生きていくのが”真のおとな”なのでしょうか。今私は、山小屋に来て、とても満足した状態にあります。皆様ありがとうございます。

(11期 Hieda Shozo)

ps.明日、又は明後日、又もとの生活にかえります。

昭和 47年 1月 2日 (日)

<西岡下山>

昨年の12月25日から入りました。僕は11:00 杉野沢発のバスに乗らねばなりません。9:30起床、既に皆はグレンデへ、僕はもう下山したと思っていたらしい。今9:45。僕のスキーでは1hrで下るのは困難ですがこれも仕方のない事です。皆さんどうも有り難うございました。

西岡

昭和 47年 1月 3日 (月)

スキー講習会

6:00 起床

8:00~12:00 練習

12:00~13:30 昼食

13:30~14:30 練習

自分で決めたスケジュールなのに、大変苦しい。私の考えは甘かったと思う。結局なんとなく まあまあという事で講習会は終わった。池原さん、バラさん、スキーがうまい。やはり私は弱体でした。明日は頑張ります。

3年13th NT竹村昇

昭和 47年 1月 4日 (火)

<赤松・中島・桜井・八木・山田入山>

<北村下山>

スキー講習会(2日目)

6:15起床

昭和 47年 1月 5日 (水)

<青木(15)・谷島(15)・川端(15)五八木荘手伝いより帰り入小屋>

雨が夜半から降りだし、屋根にあたってザアザア音を立てている。昨日は暑くて、ファスナーを開けて寝てしまった。現在3℃、ストーブをつけなくとも暖かい。これは一体どうしたことだろう。スキー場も随分、岩や木の枝が現れている。昨日は疲れたせいか、9時前に寝てしまった。連日の講習内容の厳しさを物語っているのだろうか。合宿に入っても依然として、小屋は汚く、雑然としている。それにしても、スキー合宿とは、安価に気安くスキーを覚える会なのだろうか。

スキーにも飽き、進歩の少ない私は、そんなことを考えてしまった。来年のスキー、冬山合宿、小屋の使用に関しては、部として、一貫性をもって臨みたい。

今日、岡田さんの手伝いに行っていた、一年3人が入小屋する。ごくろうさま、今年はかなり厳しかったようだが、稲刈り、小屋整備、正月の手伝いも、部の行事(?)として、事前に人を当てていかなければならない。お疲れさま、小屋でゆっくり休んでください。

X2年 14th 山/井とし子

雨って、時にはロマンチックで時にはクールで時には残酷になる。今日の雨は残酷です。グサグサッと突き刺さる、私の心に。なんて言って、大したことはないんだけど。

山小屋に人数が多く集まるってことはいいんだけど、何かばらばら。おこたとストーブと、暖をとる場所が二つあるから二つに人が分かれてしまう。話が遠いし。ここへきて、話らしい話、してない。(いつも同じ?)合宿は自分の時間が持てないのは当然なの? ただ追いまわられてるって感じ。

今年は、元旦は家で過ごした。初詣にも行ったけど、お正月気分なんて味わえなかった。早く小屋に行きたい、行きたいと思ってた。ところがここへ来てみると、第一、落ち着けない。私は団体生活の**にいつになったら溶け込むことができるのだろう。 9:15am

Tomoko

「新年あけましておめでとうございます」とは言っても、もう今年も5日目が過ぎようとしている。日が経つのは非常に早いものだ。もう今日で、山小屋に入って11日目、本当にこんなに長く居たのか、信じられない気もする。一体今年は、どんな年になるやら、去年はどうも何事もうまくいかなかった感じがする。今年こそは頑張らなくちゃー。今、1:20pm みんな滑りに行って、小屋に居るのは私と岩船二人、非常に静か、耳の中の耳鳴りが聞こえるくらい。さすがに11日も小屋に居るとバテ気味で、あんまり滑る気もしない。それで小屋の中でグウタラしている。でも、もうそろそろゲレンデへ出て行くつもりだけれど。

OB11th Ken 桜井謙一

(その1)

3日、妙高の駅に着いたとき、それを感じたのは、自分でもよくわからない。しかし、このまま杉野沢には行きたくはなかったのである。次の急行で行こうかどうか、でも考えた。決められないまま…でも、乗ってしまった。後悔はしないけど不安ではあった。何故乗ってしまったのか、大義名分を考えていたのかもしれない。妙高高原から先の雪世界は今まで知りたくない。冬の海もまだ見たことがない。だからかも知

れない。しかし、それだけで乗ったのではないと思いたかったから。スキーに来たと思うのがイヤだったから。そして、日本海で、冬の中で、思い出が欲しかったからかもしれない。砂浜・防風林・海・神社・信濃川

おみくじ・コーヒー・喫茶店

小さな手・赤い*・E.

行ってはいけなかったのかもしれないと思う。何の為に、何の為に、何の為に。何の答えも出なかったではないか。冬の高田は真っ白け。日本海も寒いだけ。浜辺の砂も何の変わりもなかった。一つたり忘れる事ができなかったのかも。

翌日、杉野沢まで歩きながらそう感じたのである。

Ryo

(その2)

丁度1年ぶりに山小屋へ来たのだ。去年はソロソロと…時間が無くて本当に一年ぶり。今度は、2年続いた岡田さんの手伝いを高木にまかせたので、正月は実家に居た。今度こそ山小屋で正月をという願いは、またしても破れ、小屋に泊まるのは1日になりそうなのでやんす。…もう止めた。

ああ、不自然、不気味なるかな。空を切るこの虚しい手。

離れる、離れていく、離れてしまう。もう離れてしまいたい。この不気味なサークル。どうやら思考の原点が違うのか。こんなこと考えているだけで苦痛である。いや、苦痛ではないのだ。単なる消耗、ゆえに思考から離脱する。サークル論無用、ワングル論無用、人間関係無用、全てナンセンス、ゆえにおいらも無用。問答無用。サークルがある故に求めるのか、求めるゆえにサークルがあるのか、求めて、求まざるこれほど悲しいことは無いだろう。求まざるもの、悲しくないのか。青白く燃える炎、僕の心。しばらく休部でもしようか。イヤそうではなくて、休部をせざるを得ないから、今の気持の中で。休もう。休もう。疲れていないけど休もう。遊ぼう、遊ぼう。もっと生きていたい。絶えざる望みを持つ故に休もう。ワングルは休むところでは無いようだ。なんで朝日はあんなに希望に燃えているのか。夕日はあたたかい。泣いて居たように。

Ryo

昭和 47年 1月 6日 (木)

やっぱり来るべきではなかったかも知れない。酒を飲みたい訳でもなし、話をする気にもなれない。ただひたすらスキーをしたかっただけなのに。スキーだけをやるということは無理だったのだろうか。早く皆かえってしまえ!やはりこの小屋は自分だけのものにして

いたい。小キジをうちに外に出た。雪の赤倉の嶺線に星が輝いていた。唐松が雪化粧をしていた。下の家の明かりがきらめいていた。もっともっと先には野尻湖があるはず。その先に私の大事な人がいるのだろうか。9日には大糸線で帰ろうか、やはり、もろいのです。川端のバカメ、赤のボールペン貸してくれた。中島は出ないボールペンを貸してくれるし、頭にくるなもう。

3年 13th NT 竹村昇

<下山 (桜井、山ノ井、谷島、H.T.)>

1:20am. 今は夜中の1時20分、今日帰ります。去年の12月26日に山小屋に入って以来、2週間近く、あつという間に過ぎてしまった。帰るの面倒くさいが帰らざるを得ない。時間の経つのは早いもの。すべからく時は過ぎてゆく。情け無用もなく、とにかかにも、帰るのだ。帰ったら色々面倒なことが待っている。メンドウだけれどハッキリさせざるを得ない。ああ、メンドウなこった。2週間近く何も考えずに、全て煩わしいことは下界に置いてきた。それでスッキリしたかというところ、戻れば同じ事、何をやってたのか、この2週間、全くバカなことをやっています。これでいいのか、なんて言っても仕方がない。

スキー講習会の最後の夜、酒を飲んで騒いで今まで起きている。明日は5時起き、起きられるかどうか、かったるい。今起きているのは6名、こたつの周りでポカポカと。今年は我々11期、ここに7名も集まってしまった。よくまあ、集まったものだ。来なかったのは大森・野田・丹羽・安藤・きり・他は全て集まった。集まりすぎという気もするが、久しぶりに会うのも良いものだ。今回の山小屋、人間が多すぎた。あんまり遊べなかった。今度3月に来るときは、暢気にのんびりと過ごそう。これで山小屋お別れ、また来る日まで。

OB11th Ken 桜井謙一

今日何人の人が帰るのだろうか。私もその一人です。帰りたい、帰りたいと嘆きつつ、とうとう、今日まで居てしまった。もういい、もうやめよう。東京の生活、新しい年、3年生、大学生活も半分が過ぎる。X

2年 14th 山ノ井とし子

山小屋って、やっぱりいいナァ！今日の朝焼けの妙高は素晴らしかった。昨日の星も。初めて本当に酔っちゃった…帰りたいくない！

1年 15th Aki 谷島章予

こんな静かな時が持てるなんて夢のようである。ボールペンの走る音！腕時計の音！しかし、もう帰らなくては、只今2時30分。突然、スキー場の音楽が大きく変わった。発進の合図のようだ。それにしてもこ

んな静かな冬の日。春のような冬の日、…冬の日。

冬、冬、冬の何が一体すばらしいって君！？きのうの夜の月の光の中で見た妙高！雪のにぶい照り返し！あれにまさるものはないのだ。

もう全てパッキングした。あとかたづけしてないけど、残っている人頑張ってください。1年生 足を折らないようにネ。3年 勝手にしろ

OB11th H.T. 高橋秀雄

昭和47年1月8日 (土)

<下山 (赤松、八木、岩船)>

<入山 (松瀬、山下)>

冬山訓練…スキー講習会…冬休みの殆どをつぶしてしまった。昨日帰る予定がなんとなく今日になり、結局同じ事…すべて同じ感じでこの20日間が過ぎてってしまった。

1年 15th YI 岩船芳人

あいつから突然うち明けられ とても正月気分には浸ってられず、とうとう3日の夕方、家を出て山小屋へ来た。そこには20数人の、オレと同じような…とても気持安らかで見慣れた奴等と一緒に居た。明るい内はスキーで体を動かし、暗くなるまでゲレンデにたわむれ、夜はローソクを囲みコタツに足を入れ、ただ寒さと闘い、眠くなるまで待つ、アーなんと優雅な6日間だったろうか。でもみんな帰ってから、なぜか乗らずついてゆけなかった私、やはりあのことが心に引っかかってる為だろう。どうしても学生である以上、避けて通ってはいけない問題である以上、これからのオレの課題である。いまはこれしか書けないので許して

午後4:25 ガス、小雪がちらついている。

お久しぶりでございます。ご無沙汰しました。何しろ旧年中は病院生活などという優雅な暮らしをしていましたの失礼ながら貴方の存在などを忘れてしまいました。年末に退院しまして、家で久しぶりの正月を過ごして居たのですが、再び入院ということになり、一度だけはお会いしたいと思い、思い立った2時間後には電車に乗りこちらへ向かっていました。(本当のことを白状しますと、小屋へ来るつもりはなかったのです。)中央線で松本まで行き、浅間温泉へ一泊、次の日、松本城を見物して大糸線に乗りました。本当は金沢の方へ回って見たかったのです。ですが、南小谷あたりからどうしてもこちらへ来たくなり、昨夕岡田氏の旅館に泊めてもらい今朝長靴で来たところです。

話は全然変わりますが、この日誌では自分の名前を

書く代わりに、いろいろとトレードマークが使用されているようです。そこで私も と考え、下に書きます。これを書くのには相当時間が要るので、今度からは文章を書くより、このマークだけ書くようになるかもしれません。

(クマの画)

熊に見えたら 貴方の目は確かです。この絵を何かで見た人が居ましたら 黙っていること。

4年 12th 山下久男

やっとの事で明日帰れます。すべては終わり、あとはスリングを背負って、2、3回転んで、杉野沢に行くだけです。いろいろと危ない事もありました。幸い小沢の軽い捻挫だけが傷らしい傷でしたが、牛窪が2階から寝ぼけてぶらさがったり、一晩中、山岡がうなっていたりした時はビックラしました。

明日はともかく帰れるのです。そして…もういいのです。これからは、静かに見守ってゆきます。1年生、2年生、頑張ってください。いつでも相談に乗ります。

3年 13th NT竹村昇

昭和 47年 1月 9日 (日)

<下山 (山下(12)、竹村(13)、青木(15)、山田(15))>

アサー。とても気持ちいいアサー。東の空はもう赤くなっている 6:15。早く起きてネ。-9°C、寒いネ。本当にサムイワー。

次に小屋に来るのはきっと3月。雪の量も今とは比べものにならないくらい多いに違いない。もうレンタンも底をついたし、石炭も無くなるだろう。何か暖かくなるもの持って来なくちゃ。

またフィッシャーのスキーで滑るのデス。スキーはやっぱり強気で。食べ物も一食 1000円ぐらいにユーガに暮らすのだ。シュラフも冬用2つなんか持ってきて「アツイ」「アツイ」って寝るのデス。そうそう、食い物は上げゼン・スエゼン。いいだろうな一。

3月に来るときが、実に楽しみだ。

今日はもう帰るのです。そして亦いろいろな事が起こるでしょう。でもきっと、山小屋は変わっていないデョー。また来る。きっと来るのデス。

3年 13th NT竹村昇

今、雑煮を作っています。僕はそれが出来るのを待っています。

――中断 (竹村からじゃま) ――

一年生へ。

一. 雪囲いを忘れない事。

一. ガスの元栓は締めていく事。

一. 二階の窓は閉めていく事。

一. 鍵は岡田さんへ返す事。

一. フトン・毛布を二階の手すりへ掛けておく事。

一. 後かたづけを必ずする事。

はらへったー (僕が書いた日誌には、このハラヘッター、という言葉がよく出てきます。要するに人間、ハラヘッター、という状態の時の方が、何かと良くやるようです。) しかし今はその状態がひどすぎて、どうもダメです。インクの出も悪いようですのでもうやめます。今日帰ります。女の子二人とです。でも例によって変なのが一人くっついて来ます。帰るとすぐ入院するかもしれません。ここに来るのも、また当分出来ないかもしれません。

4年 12th 山下久男

12時 (正午)

山下氏・竹村氏・青木・山田が下山した。それで、山小屋も静かになり、現在、中島・小泉・松瀬・川端の4人のみ。こたつにゆうゆうとして。

1年 15th 中島 一夫

4人。かつたるい。昼寝、元気出せ。不活発。こたつ。

1年 15th K.K.川端一司

今日で六日目。明日帰る。来て良かった。山小屋は不思議な雰囲気を持っている。この六日間にいろんな人のいろんな面を見ることが出来た。下界では見れないような。しかし、すべて山小屋だけの思い出にしたい。下にまで持ち込んだら、山小屋の影が薄れる。

岩船がいつもと違っていた。何となく乗れなかったようだ。無理に乗ろうとしていたようだが、何か考え事がある様子だった。相談に乗ってやれないのが辛い。阪本がクラブをやめるかどうか考えていた。気休めにしかならない言葉しか言えなかった。牛窪がさびしうだった。元気出せよ。議論して谷島を泣かせてしまった。言葉がきつかったのかな。ごめん。久保田さんにも少々言い過ぎた。すみません。松瀬が昨日来た。クラブの事でいろいろ悩んでいるようだが、山小屋を楽しんでくれたらどうか。中島がこれを書いている。おまえ、いったい何を考え、何をしようとしているのだ。しっかりしろ。

7 (セブン) ブリッジ得点表: (省略)

紙が無かったのであしからず。

H. K. 氏 ふりこみ回数が甚だ多く、獲得点数が2倍になる事多し。それでしょげていた。でも、実力・総合点では、他を寄せ付けず、一位、さすが!! (賞品は・・・何も無かったのです)

1年 15th 中島 一夫

昭和47年1月10日（月）

<全員（中島・小泉・松瀬・川端4人）下山>

山小屋に来てから はや6日目です。五八木荘の手伝いを終えて、入小屋しました。何の目的もなく、何となく来たかった山小屋。そうした山小屋は、僕にとって楽しいものでした。でも一面、無意な小屋生活でもあったように感じてます。ただ、今の僕は、考えたいというよりも、多くの人と接したいという気持ちでいるのです。皆さん、大いに話し合しましょう。

ここで、五八木荘の手伝いをして感じた事を書いてみたいと思います。僕は、この手伝いに対して、積極的な気持ちで、それはクラブとの関係としてではなく、個人的なものとして、参加したのです。そうした仕事はつらいものでもなく、つまらないものでもありませんでした。むしろ、良い経験をした。楽しかったと言えらると思います。たしかにこの手伝いを個人的なレベルとしてでなく、はっきりとクラブ的なレベルでやる必要もあると思いました。しかし、そうした「形」だけの手伝いには反対です。なぜか、その理由ははっきりと言う事が出来ません。そうなる事に対して何となく不安を感じるのです。人間関係が虚しいものになってしまうような気がしてならないのです。確かに岡田さんの姿勢には、反発を買う所が大いに有る事は、10日間、手伝いをしていて感じ取りました。でも、あの人が、クラブにとって好ましくない人間という事は絶対にできない事も感じました。僕は人間的なつきあいというものの中での、手伝いを希望します。

（自分で、単純にしか考えていないと感じつつ、書きました）

今日 6:30 に起きて（天気 晴）下山します。この山小屋も当分の間一人でお留守番してもらいましょう。また初春になったら皆やってくることでしょう。20日以上連続に使ったこの小屋、大分汚れてしまいました。出来る限り一生懸命に、私達のこの「なえな小屋」ですから片づけた積もりです。では又 ここに来れる事を私は祈って下山します。

1年15th 中島 一夫

とうとう今日で18日目、山小屋滞在記録更新！

いろいろありました。いろいろ考えました。もう時間ありません、帰ります。またきっと来ます。スキー、うまくなりました。バイバーイ

1年15th K.K.川端一司

昭和47年2月12日(土)

ジャ〜〜〜ン!

またやってきました。

11日の2259は、ガラあき。けっこうでした。スキー場は人だらけ。杉野沢リフトは歩きました。新雪がたくさん積もっていて、ラッセルに苦労しました。

山小屋、良くない。二階の窓、二カ所開いていた。一カ所は雪が吹き込んで積もっていました。便所が汚い。それに何となく散らかっていて、良くない雰囲気。(ちがうよ、ハッキリ散らかっていた。)

今日は下まで荷物をとりに行ったりして、井戸を掘ることは出来なかった。非常にバテバテである。明日は朝一番に、滑りに行こうと思っています。

4年12th 山川隆

昭和47年2月13日(日)

10時に起きた。外は、激しい風である。12時から、しばらく滑って、山小屋に戻り、井戸を掘る。一発で掘り当てた。中にネズミが居た。

4年12th 山川隆

昭和47年2月14日(月)

6時に起きる。マジメ。

スキー場に出てガンガン滑る。強風のため、第2、第3リフトは運転せず。新雪も積もっていて、井戸も埋まってしまった。強風。上から雪が降ってくる。煙ヌキあたりから、吹き込んでくるみたい。屋根に登るの良くないよ。トタン、ベコベコになるよ。その辺から吹き込んでくるのではないだろうか。コタツのわきに積もって、溶けて、凍る。

4年12th 山川隆

昭和47年2月15日(火)

<入小屋 林氏御一行3名>

少し弱気。起床8時。メシを食ったりして、まごまごしていると林さん一行3名様がやってくる。

1時頃まで国大ゲレンデを使って練習する。その後私は、リフトを使ってガンガン滑る。第2ゲレンデでみんなと会うと、コーヒーを飲みたいとか。それで、レストラン・チロルに入って一杯150円のコーヒーをおごってもらった。中はなかなかデラックスなムード。我々の行く所ではないような感じ。化粧室へ行って、山小屋に入って以来、洗っていなかった手を洗う。一回目の石鹸では泡立たず。二度目ようやく石鹸をつ

けたような感じになった。

5人になったために生活が楽になった感じがする。新しいスキーをガチガチにしてしまった。

今、メシが終わって、ブランデーを飲んでいる。林様御一行の差し入れ。ショウチュウが無くて淋しい。

4年12th 山川隆

昭和47年2月17日(木)

暗くなって、造林小屋の雪下ろしを終える。昨日、林さんがやった残りを全部おろした。疲労困憊。そろそろ疲れがドッと出てきたようである。

今日はえらかったんだってばさ〜。3時頃、第3リフト降場のあたりから、ツアーコースに入り、池の峰の鞍部まで行って、山小屋に降りてきた。4時頃、山小屋に着いてしまった。シールを使わず、山スキーも使わず。ゲレンデスキーで、ガチガチ歩いたというわけです。私と化工大学院の石田氏と。一つ新しい発見をしました。我々が12月に愛用した、池の峰の鞍部に出るルートは、少し大変であるということ。もう一本笹ヶ峰よりの尾根みたいな所を行くと。ブッシュも無く、上り下りも殆ど無く、非常に楽であった。第3リフトから1時間で山小屋に帰れるから、このコースは初心者にも良いのではないだろうか。No.3の標識でゲレンデから谷を渡り、No.19の標識で、バス道に向かって下り始めれば楽勝。ジャラジャラ。ウチドメ。

本日、山小屋の住人5名。明日は0。みんな、五八木荘に泊まって風呂に入る。

卒論は出してしまったし。この前の冬山訓練で私は、リーダーの仕納めの積もりだったし。山小屋日記をパラパラとめくって、読んでみると、可愛いような、幸せのようなことを言っている人も居るし。私が何と言っても、もう卒業してしまう以上、自分では何も出来ないし、”これでいいのか”と怒ってみても、どうにもならないし、つかれた。私は何もやらないでウジウジ言うのが一番嫌いなわけなのです。

4年12th 山川隆

昭和47年2月19日(土)

再び山小屋に戻る。今晚は私一人きりになるのかなと思ったら、山田氏がまた一緒に泊まってくれると言うので、二人になった。

パラレルはなかなか出来ない。本日、第1リフト乗場少し上から、お宮まで4分弱。今日はベタベタして、スキーが滑らなかった。

只今11時。暗くなる頃から激しく雪が降ってきて、もう出入り口の階段は埋まってしまった。-2℃。

4年12th 山川隆

昭和 47 年 2 月 20 日 (日)

激しい風の音で目が覚める。屋根からサラサラと雪が降る。二階、一階共に雪が積もっていた。

ゲレンデに出るが、非常に寒くて耐えきれず、小屋に逃げ帰る。ところが、である。我々のほんの少し前に、山小屋に入ってきた踏み跡があった。そして、出ていったような跡は無い。誰か居るな、と思って、キョロキョロしたが、誰も居る様子は無く、誰か間違っただけで、どこかから引き返したのだろうと思った。しかし、話はそれで終わらない。夜になってから、心配になって、何故かと言うと、それには簡単に言えない訳があるのだが、懐電とピッケルを持って、山田氏と二人で山小屋の中をくまなく調べた。さて、この結末は？すべて明日、明るくなってからの話でございます。

4年 12th 山川隆

昭和 47 年 2 月 21 日 (月)

夜中に何回か目が覚める。何しろ心配である。昨夜の重大事件のことを考えると、おちおち寝ていられない。朝がやって来ても、山小屋は一層不気味に静まりかえっていた。風はそれほど無いが、雪がドサドサ降っていて、山小屋の前は股までもぐる。昨日の事件の痕跡は全て、雪の下に埋もれた。この重大事件は、今後決定的な発展が無ければ、このまま迷宮入りになってしまう。

さて、お話は少し変わります。6時 40 分。私はガバと起きると身支度を整え、紅茶をカパカパと飲んで、メシも食わずに杉野沢へ向かった。今朝、市大の村井氏が、入山する予定である。スキーを着けたまでは良かったが、膝上までのラッセルで、スキーが滑らず、もがきにもがく。早稲田の山小屋の前まで、ヒーヒー言っただけで歩く。さて、ここなら滑るだろうと、カッコよく直滑降で滑ろうとすると、ジャー——ン！ストックでドッコイショと押すと辛うじて 1m 位滑る程度であった。杉野沢まで、これ以上急な斜面はない。ということ、滑るところは一カ所も無いということであった。ところが、私はそれ以後滑って降りる事ができた。なんとすれば、下から雪上車が上ってきたのである。早速その轍に乗り込んで、杉野沢まで気持ちよく滑っていったという訳なのです。ところが… 村井は居なかった。岡田さん宅まで行くと、昨夜、遅れると電話があったということであった。

リフトに乗っていると、膝から股にかけて、凍り付く。ひどい雪である。帰って来る時には、既に往きのラッセルの跡は消えていた。

岡田さんの家で聞いたのだが、昨日は誰も山小屋へは、連絡に行かなかったということである。それでは一体、昨日の踏み跡は、誰がつけたのであろうか？しかし、すべては、雪の下に埋もれてしまった。我々は真相を知るすべは無いのである。

只今、12時 10 分前。朝メシも終わり、ラジオから音楽が流れ、時々、雪がバラバラと降り、山小屋は平和そのものである。

再び苦勞してゲレンデに出る。滑っている人は少ない。ゲレンデの真ん中の、ほんの一筋のコースをみんな滑っている。毛の下着上下を着て行って丁度良い。雪質最高。こんな時は珍しい。条件の良いところでは、どうやらパラレルがきまる感じジャン。ボクも進歩したよ。

リフト券がどんどん無くなる。サイフがどんどん軽くなる。でも最後の手があるもんネ。サツマノカミなんて出来るわけないよ。シールを使うのでございます。

非常に寒い。リフトに乗っていると体がしびれてくる。

《今、私が使っているボールペンのお話》 私はこれを二度ほど手に入れたことがあるが、なぜ、両替の時に、このボールペンを 1 本だけ包みにつけて渡して来るのかわからないで、ポケットにつこんで家に持ち帰り机の上に放り出して置いた。ところがある時、あの裏通りの そのまた人目に付かない小さな路をちょっと曲がると、薄汚れた小さな窓口があって、その奥の方で、バァさんが、ガサッと包みの箱をとくと、例のボールペンがバラバラと、10 本ばかり出てきたのでした。(500×2×0. 7)

10 ヒント. 2 とは何か。0. 7 とは何か。

みなさん、この計算はわかりますね。そうなんです。これは 1 本 70 円の割合になっているのです。わたくしメが、二度ばかりもらったと思っていたのは、実は、たまたま 1 本分だけハンバが出ただけのことだったのです。ちょっと考えれば、すぐわかるはずの事なのですが、現物がガバッと出てくるまで全く、気が付かなかったのでありました。これは只単に私がニブイということではなくて、前はこのお店では、ハイミーを使っていたので、私は、包みの中身はてっきりハイミーだろうと思っていたのです。そして、ボールペンは、私が、よほど勉強好きに見えた為にくれたのだと思っていました。私はお店の人が、ほんのちょっとご無沙汰した間に、(私に無断で)ハイミーからボールペンに変えたことはユメユメ考えませんでした。

4年 12th 山川隆

昭和 47 年 2 月 22 日 (火)

<村井入山>

昨日がんばったので、11時頃まで眠る。午後からゲレンデに出ると、チロルからお呼びがかかる。村井が待っていた。

外は半月。星がチラチラ。うっすらとモヤがかかっているようである。月明かりで、妙高がボンヤリと見える。下の方に灯が見える。冷え込みそうである。

4年 12th 山川隆

昭和 47年 2月 23日 (水)

<横山入山>

横山氏入山。村井と二人で迎えに行く。9:05 山小屋に戻る。山田がチャーハンを作っていた。若干 薄味。

4年 12th 山川隆

昭和 47年 2月 24日 (木)

<村井、山田下山>

村井、山田下山。今日は横山と二人だけ。

パラレルはどうしてもうまく出来ない。悪条件にぶつかると、すぐ足が離れてしまう。新雪をやってみたら、一応曲がれる感じである。シュプールは見られたものではない。

ただいま、メシを食い終わったところ。12時までには5時間あるそうだ。今日が最後の晩である。あと5時間で、一体どれだけのものが食えるか？

ゲレンデから山小屋に帰ってくる時に、橋の少し上の方に、見事なつららが見えます。入山したときから、これをピッケルでとってきて、オンザロックにしたら良いだろうと考えていましたが、ついつい、面倒で取りに行かなかった。ストックで突ついた位ではどれも折れそうもない位太いのである。今日は最後の晩だけれども、酒がない為に、もうどうすることもできない。帰りに2mの距離まで接近して、よくよく見ると直径は、ひょっとすると20cm近く、或いはそれ以上あるのではないかと思われた。

今、ミカンを食べている。冷凍ミカンである。今晚作った目玉焼きはおいしかった。家に帰ったらたくさん食べよう。

あと1ヶ月。一体何ができるか。

今晚も少し風がある。上から雪がチラチラと降ってくる。

只今 25日 1時 10分。お湯を沸かして食器を洗い、フレンチフライにカキモチを作って、更に、とろろ昆布を食べ、横山氏と二人でかなり満足している。明日はパッと山小屋を出て行き、時間の許す限りガンガンと滑ろうと思う。

2階の窓の雨戸を止める針金が2カ所切れていたの

で、直しておいた。落ちていた食器や汚れていた食器（私が入る以前から）は、お湯できれいに洗った。就寝 1:30

4年 12th 山川隆

昭和 47年 2月 25日 (金)

<山川、横山下山>

起床 8:10 ガンバツタ。

ただいまメシを終わってノンビリしている。今日は3時間は滑りたい。雪が吹き込んできて、一階、二階ともよく積もります。フンは個室に重ねて置きました。その方がよいでしょう。フライパンは洗ってしまうと焦げ付き易くなるので、拭いておくだけにします。米を大分食べてしまいました。あと、一斗缶一本位しかありません。もともとそんなに沢山あった訳ではないけれど…。後で米代をお払いしましょう。後片付けに不十分なところがあったらごめんなさい。では、これからパッキングをして山小屋を出て、荷物は笹ヶ峰にでも預けて、ガンガンと滑ろうと思います。

4年 12th 山川隆

昭和 47年 2月 26日 (土)

山川と入れ替わりに来た。卒論も提出し試験も終わってしまい、あとは卒業証書もらうだけ、何にもすることがない(?)ので、スキーをやりに来た。今日は風が強い。リフトも時々止まる。午前中は井戸より水くみ。バテたよ。午後、杉野沢に食料買い出しに行こうとしたが、風が強くリフトが止まっている。帰り登ってくるのはキツイので買い出しは中止して、小屋で静養することにした。風で雪が吹き込み、小屋の中は大雪、時々箒で掃いている。屋根の隙間を埋めなければ、屋根を早く二重にしようよ。たった一人の山小屋は、二年の時以来、ラジオを相手にこれを書いている。本でも読むか、シールの修理でもしようか。明日はバンバン滑るぞ！

4年 12th 榎本吉夫

昭和 47年 2月 27日 (日)

<阪本、三島入山>

9時起床、寝過ごしてしまった。10時頃買い出しに行こうとしたとき、坂本と三島が到着。2時まで一人かと思っていたが、二人が入ってきてくれたので色々助かるよ。1日に1年4人来るそうだ。午前中は買い

出し、午後から滑る。ずっとガスっていたが、リフトが終わる5時近くになって晴れた。明日は晴れそう。三島は初めてだそうだが、なかなかスキーに乗っていて強気のスキーをやる。小屋の屋根のトタンが風でバタバタうるさい、剥がれてしまいそう。何処がバタバタ言うだろうか、直す必要がある。

4年 12th 榎本吉夫

本日、三島と二人で山小屋へ来る。静かな雰囲気になかなか満足。ついに念願がかなったわけだ。夕食は榎本さんがカレーライスを作ってくれた、ちゃんと感謝して食べたのです。なお、皆さん三島の愛称は「おもらい君」です。どうぞヨロシク。

今 p.m10:30 外は夕夜、時々粉雪がコタツの上に降ってくる。趣があるというか、はたまた おかし というか、修理しなくては。

榎本さんの乗ってきた 金曜の 22:59 は混んでいたらしいが、土曜の 22:59、我々が乗ったやつはガラガラで、時代は変わると思う。

さて私もそろそろ登録商標を作ろうと思う。いざ、考えよう… …中止

1年 15th 阪本喜英

昭和 47年 2月 28日 (月)

朝、出掛けに旧ベランダ側の窓の周り除雪をした。右側の覆いがしていない方は、これ以上積もると左側が昨年割れたように、割れてしまう恐れがある。必ず除雪すること。午前中、雪の降りしきる中を滑る。スキーヤーが少ないので滑るそばから積もってしまう。新雪はなかなかうまくいかない。まだパラレルの段階で小屋に戻って、まず水くみ。その為に井戸を掘り出す。それから造林小屋の雪下ろし。しかし、屋根の軒と同じ高さに雪が積もっているの、どこに雪を下ろすの？。まあ、よく働きました。雪は降り続けている。阪本と三島の二人は、午後は滑らないという。4時頃スキー場に出る。2回、第2リフトで滑って帰ろうとしたら、リフトはもうおしまい。第2リフトは歩き、スキーパトロールも降りてしまい、トボトボ歩いて第2ゲレンデの売店まで、ここでスキーを着け、小屋についたのが5時半頃だった。バテた。二人はコタツでおねんね。思い出したが、午前中滑って、帰ってきて小屋に入ろうとしたら、朝出るときのちけていった入口の締め金具が引っかかって開かず、十分ほどあれこれ苦労してやっと開けた。この金具は気をつけること。

6時、ラジオを聞いていたら、軽井沢の連合赤軍が捕まったそうな、警官二人が死んで。どうしようもない！また、更にその赤軍の一人の父親が首吊り自殺したニュースが続いた。いやだね！

4年 12th 榎本吉夫

気を紛らす為、また登録商標を考える。まず思いついたのはニワトリ、でも絵がよく書けないからやめ。次は豆腐、ある人がオレをトウフの様だと言ったものだ。実に当たっている、言われた時はビックリしたものだ。絵を描いてみる。でもそれらしくないからやめ。次は射手*のマーク、これこそふさわしい。キーめた。二人とも寝てしまった。今 0:20am、夜は僕の為に。

Look if you like, but you will have to leap.

1年 15th 阪本喜英

昭和 47年 2月 29日 (火)

どうも山小屋に来ると泣き言を言いたくなって困る。メメしいのメメしいの飛んでけー。オレは常に optimist でなければ、promising な若者でなければ、自惚れやの自信満々の、どうしようもない頑固な、オレは選ばれた人間だと思ひ続けなければ。しかし、そう思うのはマスターベーションのような気もするな。確かに 籠の鳥 だし、鎖に繋がれ頭を垂れた犬だ君も。

小キジを撃ちに外へ行くと、月が明るくて不気味だ。1:00am。妙高が薄暗い青い空をバックに真っ白で美しい、美しい。(僕は美しいという語の方が きれい というのより何故か好きだ)

友達にははるかな旅路に

いま一度たたないかと

手を取ってふるえる声で言ったけど

あきらめたのでしょうか

去年の今頃どうしていたら。メメしいついでに、メメしくメメしく、受験の少し前。3月1日、オヤジと喧嘩し、あいつの非を責めた。するとアイツは涙を流してオレに謝りやがった、泣いて。それ以来オヤジを可愛そうな人としか見られない。尊敬の対象として少なくとも普通の人として見たかった。オレがオヤジを冷たく見てる その見方は、ただオレが若いせいだけではない。いくら年をとって行って、オレがオヤジをそう見るようになった原因、彼を責めることになった原因は、オレに彼を冷たく見させるだろう。

傷つけることはしたくない

優しさがわかりすぎて

バカヤロと言ってほしかった

それだけを言い忘れたのでしょうか

そして3日から受験、そして ついらく その後国大合格、そして家からの脱出、もうダメ

1年 15th 阪本喜英

昭和 47年 3月 2日 (木)

下山 (榎本、阪本、三島) >

今、帰る用意をしている。昨日来た4人（岩船、田中、実方、福地）は、遅い朝飯を食べている。スキーは思ったようにはいかず残念。今月中にもう一回来る積もりだから、その時には！みなさん、気をつけて滑ってください。

4年 12th 榎本吉夫

昭和47年3月4日（土）

1日に小屋に入って、既に4日もたった。今日はマーチャンをやってメシを食って、暇でしょうがないのでこの日記を読んでいたら、何となく書かなくては行かないという気になってしまった。田中は、スキーの本を一生懸命に読んでいるし、岩船は、ピンピン体操の本を読んでしきりに感心している。福地は、タバコとミルクを飲みながら、やはり日記を読んでいる。明日は女の子が入るそうだ。ここ3日ばかりワイ談が多かった。女の子が来て、この調子で行こうと、誰かさんがしきりに強調している。それも良からうが不自然になっちゃうネー。まったく、小屋には頹廢の極みでありやんす。このみだれ様。この汚さ。寮よりも汚い、とか。話と言えばマンガ、オバケ、ワイ談。シラナイノ、シラナイノが合い言葉。こんなノート、書く気しないよ。スキーもマーチャンも全然上達しないね。男4人、この小屋に来て、もう4日。毎日の日課といえば、朝10時起床、（朝飯は前晩に麻雀で決める。）11時過ぎにスキーの為にゲレンデに行く。晩飯の後は麻雀、その他に時間を費やす。ここにいると下界と違った世界に居るような気がする。試験も終わり、こんなにノンビリとした気分になれたのは久しぶり。

Oh my love, for the first time in my life,
my eyes can open wide now
I see the sky, oh I see the wind.
Everything is clear in my heart
今のあたくしの心境 by? (盗作)

1年 15th 実方聡

昭和47年3月5日（日）

<下山（岩船）>

今日は待望の女の子が来る日である。今までは10時過ぎに起きていたが、今日は7時起床、メシも食わずスキーをはいて杉野沢まで降りる。（希望に胸をふくらませながら）、ところが、なのです。五八木荘に連絡があって女の子が来ないというではありませんか。みなさん（僕を除く）ガックリして、トボトボとリフトの所まで行きました。今日の日を楽しみにしていたのに、みんなガックリ。

小屋に着くとメシを作り、その間に早速麻雀をする。

結局、田中が一番沈み食器を洗うことになったのです。ところで今日、岩船が帰り、明日は実方も帰る。残りの田中と俺は7日まで居るつもりである。

1年 15th 福地大蔵

これから2ヶ月ぶりに帰郷します。この5日間、朝は遅起きメシも優雅に食い、スキーをやり飽きたら形なりのコーチをする。しかしながら、人間てのは時間をかければ少しはうまくなるんですね。書くことが無いので今、くだらない男の会話を書いてご披露します。

「おまえ、スキムミルク好きだね」「彼女の方がもっとうまいんだよ」「子供生まなくても出るのか」「出るんだよ。オッパイが張るまではいかないらしいけど」「そうそう、『砂の上の植物群』に出てきたよな」「オレも結婚すると張っていたいからあなた飲んで、なんて言われるんだぞ」「そうしたら、オレいいな。赤ん坊にスキムミルク飲ませておこう」ここで書いてる本人もくだらなくバカらしくなったので止める。とにかく、この5日間 自分の人生で一番ノンビリした日を過ごした感じ、しかしノンビリとは、イコールバカげた、どうでもいいような事しかしなかった、ってことになるんだろうな。それにしても麻雀なんて下らないね。しかし、まあまあ人に着いてゆける程の腕に上達したので、今回は有意義。それにしても、男だけの話ってのは、どうして品が無くなるんだろうな。きっと男の本性は、いやらしいんでしょうね。

1年 15th 岩船芳人

岩船が帰って今は3人。彼のおかげでどうにか滑れるようになった。感謝に絶えない。明日はまた、寮に帰らなければならない。やっとスキーが面白くなったところなのに。やっと落ち着いた、素直な気持ちになれたようだ。横浜に帰れば、またあの違和感を感じざるを得ないだろう。とすれば、山小屋とはどんな世界なのだろうか。一般生活とは全く次元の異なる世界なのか。長い時間 生活している生活が 真の生活と言えないように、山小屋に来ることが逃避だと言うことも出来まい。どちらも、どちら。どちらも生活、素直でありたい。何でも良い。とにかく素直でありたい。下界では、やはり素直になれない。素直なんてことを忘れてしまう。ただ流されてしまうようだ。これじゃいけない。素直に、思えば思うほど、ごちちなくなる。現状を離れた夢ばかりを追いたくない。自分の生き方をしたい。僕は僕の道を行くんだ。思えば思うほど、素直でなくなるような気がする。妙にいちけてくるような気がする。もっと気楽にやればいいじゃないか。妙に気取るんじゃないよ。そんな気もするが、やはりそれじゃ。自分にムチ打つ事を忘れてたらおしまいじゃないか。自分に満足したらおしまいだ。完全さを望んで、完全になっちゃいけないんだ。素直にそして、自

分の道を！もうすぐ、二年になってしまう。(正に、なってしまうという感じなのだ。)大学に入って何かあるような気がして(実に他力本願だったのだ。)結局何も出来なかった。(実は何もしなかったのだ。)期待ではなくて甘えるのはよそう。自分の道を歩こう。自分から始めよう。弱い弱い、小さい小さい自分というカラからの脱出を目指さなくては。一人で気負うのはよそう。素直になろう。人を愛そう。弱い自分を認めよう。決して泣くまい。今年は何をしよう。これ以上ワングルに期待するのはよそう。あるのは、期待ではなくて、自分からの行動だ。どうも、気負いすぎた。でもそのうとの何%は、俺の気持であることは確かだ。常に素直であれ！明日はまた寮に帰って行く。そこには、またワングルとは、また別の世界がある。ワングル、狭い世界、寮、狭い世界、生活、狭い世界、何という狭いせまい世界。そんな狭い世界の中でさえ、素直になれる自分。なんというせまい人間。常に素直であれ！

1年15th 実方聡

岩船がオッパイ飲みに戻ったので、マージャンも出来なくなってしまったので、マスマス暇になってしまった。もうポケーとして、イライラしてきてしまう。ウワアと、誰も居ないゲレンデに飛び出して、大の字に寝て星を見ていたい。けれど…、あまりにも、普段コセコセした生活に慣らされてしまっているのがよくわかり、イヤになる。全く、山小屋という所は面白い所だ。あまりにも、下界の生活とかけ離れていて。一面頹廢的、一面瞑想的、一面自然的。どうでもいいや。

3月も今日で5日。1日に小屋に入ったのに、あっという間に5日も経ってしまった。試験期間中、鬱陶しくて早く小屋にスキーに来たいなあと思っていたが、その間の長かったこと。ポケーと好きなことしていると、時が経つのは早いねえ。まさに、この1年間何もせずに、何も得ずに(女の子も)終わってしまった。これで1年終わったんだもの、あと3年もあつという間に終わってしまいそうだ。(もっとも、あと4、5年やるつもりではあるが)。何もやらなければ何も得られない。ごく当たり前のことではあるが、いざこの壁をうち破ろうとする事はもっと難しい。

今日は(も)、星がとってもよく見えます。やっぱりNIKONの35×7の双眼鏡で見たいねえ。だれか、望遠鏡を寄付してくれないかねえ。毎日でものぞくだけだねえ。今(3月5日 20:15)良く見える星座、オリオン・大犬・双子・カニ・シシ。大熊がムクムクと立ってきた。やっぱり春ですねえ。

実方は先程から何遍目かのココアを作っています。雪印のスキミミルクをたっぷり入れてコネクリ回しています。氏曰く「スキミミルクは便利だねえ。大人も子供も使える」(?) やること無いので、煙草とココアばかり飲んでいる。「何にもすること無いもんねえ」

「いや、やることは一杯あるけど、さしあたって、差し迫った事が無いから」「大人になったら後悔するだろうねえ。」(今見える星座図：天文年鑑より)

1年15th 田中武憲

このノートをずっと見ると、書いてあるのは殆ど同じような事ばかり、(だからといってそれが非というのではない)そこで俺は何が変わったことを書きたいなあー。何を書こうか、そうだなあー、今一番やりたいこと、これも書く気しないなあー僕の好きな物ーえーと、あそうだ、僕の好きな物の一つに音楽がある。音楽といっても漠然としている。ポピュラー、歌謡曲、クラシック、民謡、色んな種類に分けられるが、僕はそういうものにとらわれず、好きな曲は何でも好きである。さしあたって俺の好きなグループ、ビートルズについて、思っている事を書こうかな。

「Beatles」という言葉に対して殆どの人がそれぞれの反応を示すと思う。それほどに「Beatles」は我々と深くつながりがあるのではないだろうか。(こう思っているのは僕だけかもしれないが、)僕が彼等を最初に知ったのは中一の頃である。当時そんなに好きなグループではなかった。彼等の虜になったのは中三頃からである。その頃から「Beatles Sounds」に惹かれ彼等の音楽の世界に入ってしまったのである。彼等の曲そして行動には、僕と相通ずる思想(大ゲサダネー)があるように思える。曲自体は単にうるさい曲かも知れない。でもそれは表面的なものに過ぎない。彼等の曲は僕に何か訴える物を持っている。若者なら誰でも持っている、どうしようもない気持、それをそのまま素直に歌い、時には絶叫となる。それは、若者だけに理解できるものであると思う。他にも色々書く事はあるけど、この辺でやめよう。とにかく彼等は解散した。でも彼等は、彼等なりの道を、四人それぞれ進んでいる。彼等が解散した事は悲しいが、でも彼等が、そうすることが正しい、そうしなければ自分がダメになると思ったのなら、それはそれで良いと思う。ゴタゴタと書いたが、読んで、下らない事を書く奴だなと思う人が、多いと思う。でも、真のビートルズファンなら、僕の気持ちを解ってくれると思う。 実方・岩船・田中・福地

1年15th 福地大蔵

昭和47年3月6日(月)

<下山(実方)>

やっと実方が帰ったので、さて天気良くなるかと期待したが、今日もあんまり芳しい天気ではなかった。待てど女の子は来ず、それに腐った岩船・実方は下山し、今日は田中・福地の2名のみになってしまったが、

この御両名もそろそろスキーにも嫌気がさし、いや、半分風呂に入りたくなくて、いやいや、暇をもてあましてか、明日下山する事に致しました。(実は、元手になるものが無くなったからなのです)

いやな時間が過ぎて (pm 7~9) やっと落ち着くときになった。明日からまた、下界に戻ると思うとうんざりする。合宿まで何をしようかしら。今、合宿なんて全然行きたくない。いやだなあ。あんなもの。そら、まあ、クラブの維持存続の為には必要ではあろうが。やっぱり、山小屋はいいねえ。ポケーと、腹が減ったからメシを作り、眠いから寝、誰にもジャマされず、好き勝手なことをやっつけていい。こんな事を書いてもしようがないね。

何かいっぱい、バサロ (これは私の故郷の方言でありやんす) 書きたいが、バカバカしい気もする。

いま、ビーシーズの「マサチューセッツ」の曲が山小屋の中に流れて、とってもいい雰囲気です。練炭が消えかかって冷え冷えしてきましたが、今日はずっと暖か、-1℃です。連日、夜は-5℃ぐらいだったのですから。福地はよく寝るねえ。彼の大好きな茶ポン棚の「生首び」も、俺達が出山したらさみしがらんだろうなあ。いつか、月の光で (勿論夜だよ)、妙高山の写真を撮ってみたいなあ。私の好きなカシオペア座もこれからはしばらくお目にかかれない。

まったくバカだねえ。こんな支離滅裂な事を書いて。

只今、PM10:00です。今回は、酒を大いに飲むつもりで来たのに、なにか、いざ来てみると、あんまりその気にならず、大いに余ってしまった。次に来る人、よかったですねえ。味わって飲んでください。

闇。山小屋に来て初めて知る事が出来た。光が全く無い世界。静寂。なんとなく親しみが持てる、懐かしいような、人間の故郷みたいだ。この暗黒から、人の世の諸々の物が生まれてきて、今も生まれているみたいだ。闇をしっかりと目を見開いて見つめていると、何かモヤモヤした中に、心の中のイメージが浮かび上がってくる。闇。この不思議な宇宙。心の故郷。

オレにはやっぱり、全然詩的センスが無いねえ。

1年15th 田中武憲

昭和47年3月7日 (火)

<下山 (田中、福地) >

ようやく帰る日が来た。この1週間、スキーを大いに楽しみ、怪我をするようなこともなく無事に過ごせた。そう言えば昨日 (スキーをやる最後の日)、スキーをやっていたとき、後からスキーの下手な中年風のオヤジが僕にぶつかって、(僕の)ストックが曲がってしまった。全くもう、頭に来るねえ。1300円も出費して

買ったばかりなのに。

山小屋よ、雪よ、山よ、さようなら。また来年もスキーをしに来ますから、その時はよろしく。おかげで大変楽しい一週間を過ごす事ができました。サイナラ、サイナラ、サイナラ~

1年15th 福地大蔵

まるまる一週間お世話になった山小屋。どうもありがとう。今から下山します。これからまたしばらく、この小屋も主を失って一人留守番ですね。もうこれからは雪が降る事も少なくなって、だんだん暖かくなるでしょう。今度山小屋に来るのはいつかなあ。また4人ぐらいでノーんびりしに来ますよ。では、また会える日まで。

1年15th 田中武憲

昭和47年3月13日 (月)

中雪→曇り時々晴れ→小雪→大雪

またお世話になります。よろしく。

昨夜の22:59で早朝妙高高原に着く。杉野沢で岡田さんにカギを借りて、小屋に?時ごろ着く。(私、時計が無い為、時間が全然判らないのです。ラジオで確かめようとしたのですが、私のポロラジオは、全然音を出してくれません。) 2時間ぐらい、水くみ etc をやってからゲレンデへ。持ち前の天分でしょうか、我ながら感心するようなすべり様でした。お天道様がやや傾き加減になった頃、山小屋へ帰ってきました。今日はすごく疲れています。早速夕食にしました。米を炊いたものと、サッポロ一番みそラーメン1ヶです。昼食はチャルメラ一番? 1ヶでした。もう外は真っ暗です。ローソクの明かりだけがチラチラして、オバケでも出そうな様子です、私は用事があるのを我慢して、小屋の外へ出ないようにしています。そうそう、今日練炭1ヶを使用させて頂きました。コタツの中はとても暖かであります。今、何度ぐらいあるでしょうか、コタツから出て、ちょっと見てきます・・・ハイ見てきました。-3℃です。思ったより寒くは無いです。明朝は、早く起きて、私のスキー術に磨きをかけたいと思います。

河野 (元YWW)

昭和47年3月14日 (火)

小雪→中雪→大雪→小雪→中雪

昨夜来の雪が降り続き、朝起きた時にはかなり積もっていたようです。朝食を食べてゲレンデへ。雪は膝あたりまであり、ヒドイラッセルであります。ゲレン

デまで 30 分以上かかったでしょうか。くたくたであります。人はあまり居ません。新雪が沢山積もっていて、全然うまく滑れません。ドスンドスンと転んでは起きあがりしながら、第1リフトまで来ました。杉野沢へ買い出しに行く積もりでしたが、この分だとヒドイ目に遭うかもしれないので、ヤメルことにします。相変わらず雪は降る。風も加わり、雪は斜め上から斜め下へと降る。リフトの上はヒドイ寒さで、身も心も凍る思いです。ああ、燦々と輝く太陽が恋しいのです。Lunch を食すため、小屋へ。ますます雪は激しく降る。ラッセルがかったるい。朝のトレースが消えかけています。

ガスの出が悪いようです。外の元栓のある所の、ゴム管が捻れているようです。直そうと思いましたが、タンクが動かないのでやめました。昨日から、ろくな物を食べていないので、そろそろ買い出しをしなければと思いますが、今日はヤメルことにしました。

山小屋へ来たのは何回目でしょうか。初めて妙高に来たのは、1年の夏、笹ヶ峰へ行った時です。途中、バスの中から山小屋建設予定地を「あの辺りだ」と言われるままに眺めたものです。その年の10月中旬、再び妙高に来ました。山小屋は骨組み程度で、まだ完全には出来ていませんでした。その時は造林小屋で寝ました。翌年の夏、妙高に来ましたが、山小屋には来ませんでした。ワングルに居た間、この小屋へ来たのはこれだけだと思います。その後、去年の正月と暮れ、そして今回と、スキーをやりに来ました。その間、僕のスキーの腕はメキメキ上がり、今日では、周りの人があっと驚く程の、滑り様です。(自己満足)

しかし、山小屋に来る度に、山小屋って、イイナアと思うのですよ。ほんとの話。

今、風の音がヒューとしました。どこかでガサツという音がしてドキリとしました。只今、この山小屋に居るのは、私一人です。ローソクの炎が私の”頼みの綱”なのです。今日の晩、2個目の練炭を使用させて頂きました。昨日点火した練炭は今日の昼まで点いていました。昔に人は便利な物を考え出したものです。つくづくそう思います。外はまだ、雪でしょうか。見に行きましようか、でも寒いのでやめました。

山へ行ってヨーデルをやってみましょう。ヨーデルは風情があって良いものです。特に山の中でやると非常に良いと思いますよ。この間、古本屋で「ヨーデル入門」とかなんとかいう本を買って、1週間ぐらい練習して、やめてしまいましたが、ヨーデルとは裏声と普通の声を交互に出す唱法だそう。

この間テレビを見ていたら、フルートを吹いていました。そこで私は考えたのです。あれを山に持って行って吹いたら、さぞイイモノだろうナアと。そこで今年フルートの練習をすることにしました。きっと来年は、僕の吹くフルートの音が、山々をこだまするこ

とでしょう。

外は、風が時折吹いています。明日はきっと快晴です。

昭和 47 年 3 月 15 日 (水)

曇時々晴時々小雪→小雪→中雪→小雪→中雪→

今日も期待はずれ。雪の一日でした。杉野沢へ買い出しに行きました。やっと、ややまともな食事をしました。今日で3日目、やっと一人の山小屋生活に慣れました。それでも夜は、小屋の外へは出ません。

河野

昭和 47 年 3 月 16 日 (木)

快晴→時々曇 -10°C

晴れました。雲一つない快晴です。日中晴れて、温度が上がったためか、今、屋根の上の雪がザーザーという音と共に滑り落ちたようです。日焼けして顔中ヒリヒリする所で、ボンカレーを食べたので、口中までヒリヒリしています。

河野

昭和 47 年 3 月 17 日 (金)

晴→快晴

またもや快晴。今日帰ります。練炭3個使用しました。プロパンガスを少々。砂糖少々。コーヒー少々、ココア少々、スキムミルク少々、その他食料少々、キジペ少々、井戸の水少々、フトンと毛布4~6枚、その他省略、以上使用させて頂きました。ありがとう。さようなら。 12:00頃

E. Kono

あ、それから、山小屋使用料は帰ってから払います。よろしく。

河野 (元YWV)

昭和 47 年 3 月 19 日 (日)

バッチリ快晴

殺人的な夜行急行で一路妙高にやって来ました。男一人に女五人、何と優雅な妙高山生活だろうと想像していた。快晴の天空に横たわる妙高山の雪姿に倍加されて、我が心は既にスキーに乗っている。昼頃小屋に着いて、水くみをしておいて、早速グレンデスキー。生まれてから二回目、数えて五日目のスキーです。岡田

氏の話によると、今年は雪が少ないとか、それでも明かり取りの所まで来ている雪を払いのける程の積雪量なのです。

夕方から雨が降り出す。 13期 宇佐川他5名

3年 13th 宇佐川文恵

1時間 24分遅れで、妙高高原駅に着いた。これでも急行列車である。どうにか下車し同車両の修学旅行生徒に盛大(?)に見送られて、意気揚々とスキー場に向かう。バスの中で初めて座り、20分位の夢路をたどる。空はどこまでも青く、暑いくらいだった。どうして人は、こうも居るのかと思うほど、リフトの列。考えてみれば、リフトだけでなくバスも列車も人人人…。リフトから見る山々は素晴らしかった。去年、秋合宿で登った妙高も、既に白に変わり、自然のすばらしさを感じる。山小屋は、話に聞いていたより素晴らしかった。雨は漏らないし、なんと、青畳までである。関東より立派。噂の馬鹿馬鹿しさを感じる。水場まであったとは、素晴らしかった。スキーを楽しんだ後は、宇佐川氏の好きなココア。みんなホットを飲んだのに、アイスがいいと言うから、宇佐川氏の為に雪を取りに行った。小屋を出たら左側に赤旗が立っていたので、その雪がきれいだったので取ってきた。おいしかったのか、「どこの雪か」と訊ねたから、言ったら、あの赤旗はゴミ場の印とか・・・?宇佐川氏、おなか大丈夫ですか?

(鶴見大) 岸

昭和47年3月20日(月)

朝から横殴りの雨

<入小屋(下田他友人3名)、(竹村&GF恵)>

宇佐川氏のお腹は、まるで変わりなしの様子、雑煮ドンブリ4杯。だが、外の雨はドウしようもない。(あー、スベリタイヨーとスキー板が言っております)。いいですねー、ココ、妙高のことですよ。まだ、来たのは2回目だけけど…日にすると十日ぐらいいかな。今シーズン初雪を見たのも火打なのだ!想像していたより、山小屋もずっと立派。ちょっとビックリしたのであります。五月になれば、水芭蕉、秋になればキノコ採り、落葉松の芽の吹き出る頃もいいだろうなーなんて聞かされて、チックショウメなんてはしたない言葉を使ってしまった。「ヨーシ ワレラガ ワンゲルデモ ヤマゴヤ タテヨウゾ…」私はもう OG なのであります。

今日は午前中滑って、午後スケッチでもしながら、この辺ワカンでボッコボッコ歩こうかと考えていたのですけれど…この雨ではダメの様子。宇佐川氏の提案

でセブンブリッジで明け暮れそう…ガンバルゾ。またいつの日か、この山小屋を使用させていただきます。きつとー

落合(鶴見)

雨

3月のダイヤ改正のおかげで300円も余計に払わされて着いたのに、このひどい雨で、第1リフトからスキーも履かずに、長靴でボコボコ沈みながらやって来たのです。足は全く感覚が無く、鼻水ダラダラ…

下田他3名、山小屋に入る

2年 14th 下田昭

雨、いやね!本当に、本当にいやなのね。久しぶりにやって来たのです。2ヶ月ぶりですねー。私ももうすぐ四年です。こんなにひどい雨。どうです、一昨年の夏の台風以来です。しかし、しかし私は一体何を言いたいのでしょうか。

竹村他1名山小屋に入る。

11:00am 3年 13th 竹村昇

昭和47年3月21日(火)

小雪→曇り

<下山(宇佐川、鶴見5名)>

<入小屋(西井、曾根原)>

<立寄(鶴飼)>

小雪が舞う朝です。鶴見の女の子が今日もまた、食事の支度をしてくれます。私?私、ワタシやりましたよー。水汲み1回ぐらいいけど。そういえば今日、鶴見の女の子達は下山するそうなんです。実際、残念です。どうしてかって? ご想像に任せるのです。

ここで一言、上野発 23:58 の直江津行き急行はナンヤンス。前に走っていた、22:59 の発車をちょっと遅くしただけで、列車は変わらないし、駅で止まる時間もかなり長いのです。私愛用の、2259 はもう居ない。国鉄メ!キセルしてやるぞー。

3年 13th 竹村昇

今日、山小屋から帰ります。昨日は雨で、小屋の中に閉じこめられてしまって、三食のメシもなんだか続けて食っているようで、全く空腹知らず。何とこの世の天国か(単純な人間なもので)。天気予報によれば、本日は多少なりとも滑れるのではないかと思うが、朝はガスっていて粉雪チラチラ。昨夜の雨で雪はコチコチ。スキー滑って転べば、尻にアザが出来るのではないかしらん。うさがわちゃん

宇佐川他5名 下山。西井・曾根原山小屋に入る。鶴

飼、小屋に来て、下の民宿に泊まるという事。

ワタシの「フィッシャー」早く帰って来いー、ザラメ雪、アイスバーン、何でもかんでもスマートに、かっこよく滑れるのに、グラスのスキーじゃあ、うまく滑れないヨ。(一つ おせえて欲しい。もしメタルがあったら なんて、言い訳したらいいのかしら)。今日はあんまり滑れなかった。

3年 13th 竹村昇

昭和 47年 3月 22日 (水)

<五八木泊(竹村&GF恵)>

<入小屋(牛窪)>

快晴

やっと晴れたのだ。小屋に入ってから3日目です。と、太陽が拝めたのです。おかげで午前中滑っただけで顔がヒリヒリ。それに、ちょっと疲れ気味で、お昼からどうしようかなー?って考えているうちに、もうすぐ2:00。あーあー時間はどんどん過ぎてゆく。どうしよう、どうしよう。それから今夜は五八木荘に泊まる。

3年 13th 竹村昇

スキーで転んでお尻を打ったのに、頭までビーンときて、痛いのだ。そして二階に上がって何気なく、ごく普通に、一切を拘らずに歩いたら、またまたゴツーン オー イテイテ 眼の横を強く強く打って、家に帰る頃は、天才か馬鹿になって、体中アザだらけでしょう、きっと。

どうせワタシはヂジマヌケ。

部外者 GF恵

何しろ今日はついていなかったのです。

本当は昨日の夜行で来たかったのですが、家庭教師をやって、スキーにビンディングをつけて、何やかやと時間が経ちました。って訳で、今日の急行で来たのです。妙高3号に乗って来たのです。ところが、まず新宿駅で学割でキップを買おうとしたら、期限切れで買えず、1050円払ってキップを買ったのです。途中検札は来なかったの、これはこれはと思うと、残念妙高で出るとき300円とられてしまったのです。しかも、しかもですよ、5分遅れて長野に着いて、本日は長野より妙高高原まで各駅に停車します等と言いやがって、結局10分ぐらい遅れて妙高高原に着いたわけです。その結果はバスに乗り遅れ、1時間もバス待ち、幸いリフトは動いていたものの、とにかくついていないと思うのです。

ま、いや。とにかく着いたから。今のところ1年は俺一人。

1年 15th うしくぼ 牛窪肖

今、下田さんと曾根原さんと西井さんがメシの支度をしています。下田さんはこっちに来てコタツに入りました。別に書くことも無いので、私も自分のマークを発表致すことにします。右は、鏡の国のアリス に出てくるハンプティダンプティ とオバQを混ぜたものなのです。

うしくぼ

家には明日帰ると言ってきたんだけど、帰りたくな〜い。もっともっと滑っていたいよ! 足を少し捻ってしまっタイ 事を理由にし、竹村さんに電話をかけてもらう予定、今頃電話しているかな。内容は「足を捻ってしまい痛いので、ザックで降りることが困難、西井さんと土曜日帰る。バイト二つ、ヨロシクお願いしまーす。」以上。しかし、そんなにひどくないし、家の人は心配するだろうし、良心がチクチク痛むのであります! リフト券、あと2回使えるんだっけ、どうしよう、どうしよう。けれど、無理して来てよかったと思う。飽きるまで、イヤになるまで、ここにいるとしたら、何日位かしら。一番長くて、一週間しか居たことが無いし、それも、小屋の整備で来ていたんだ。何もやる事がなくてボケーツとしていたらなあ、といつも思った。

スキーなかなか上手にならない。ゲレンデでスイスイと上手に滑っている人みたいにできたらなあ。でも、いつのことかしら、そんな風になるのは。

只今小屋の中は7人、そして室温は6℃、暖かいで一す。雪はベトベトで非常に滑りにくかった。明日の朝はコチコチに凍っているでしょう。

2年 14th 曾根原靖子

書き忘れたけれど、どうして、こう食べれるのかしら。

1日何食かと思えば、5食位かな。いやだな〜あ

曾根原

昭和 47年 3月 23日 (木)

<日記に記録されている他の在小屋者(山川、海保、岡戸、岡戸GF、:曾根原日記人物評より)>

とうとう帰るのは明日に延ばしちゃった。でも、午後は雨が降ってきたし(今ザーザー音を立てている)、朝は朝で、プロパンガスが無くなってしまい、食事を作るのが大変だった(女の子は最後まで寝ていたのだ)。デモ、オイシカッタヨーン! 今はやる事が無い。下では賭け事に熱中しているし、二階では寝ている人もいる。さて、私達美女二人は如何に?

迷曲をハーモニカで吹いている人へ、うるさくなんかないけど、正確にやってよ! ここでその妙なる音楽を聞きながら人物評といきましょう。

下田君=露出狂。旧人合宿での水浴び、その後、目を覆いたくなるような肉体を、女の子の前でさらけ出すとは。黙っているようで、喋っていて、よく食べる。鑑賞に値する人物。あれで絵心があるとは・・・

竹村さんのカノジョ=よく（はつきりと、ずけずけと？）モノを言う人。頭をよくぶつける。だからあんなに背が低いのか？イテテ、イテテ。色が白くて一見可愛い人。二見…???

下田君の悪友達、その1=一番大きくて眼鏡をかけてる。(180 cm 80 kg)、ヌーボーとしているようで、気が利くようで、頼りになるようで、写真が好きで、撮影禁止の仏像を 24 時間かけて、スキをみて写したそう。

その2=昨夜の賭け事で一番負けた人。一見おとなしそうで尻に敷かれそう。二見亭主関白、三見フェミニスト。酒を飲んだらどんなに豹変するだろうナ、と期待の出来る人。

その3=June1 さん。(名前純一、生まれた月日が6月1日) 一見とてもステキな彼、二見キザ？、三見ダメ。でも昨夜の紅茶はとておいしかったんだワ（そんなの誰でも入れられるよ）、夜はあなたのお側にいきたいです。(nnn) (だってあなたは羽毛服を着て寝ていらっしやるんですもの)

岡戸さんのカノジョ=ワングルやめてとてもホッソリ。いいないいな。ほんとに素敵なお姉さま。優しいおかあさん。あと何年後かな、意地悪婆さんになるのは。

牛窪君=女とは sex の対象にしかならない (!?) と追コンの時わめいていたっけ。年上の下級生。部室の番人になり得る人、今度国大ワングルの歌を作ってね、オネガイ！食べたら、身は少なそうだけど、きつと濃い味がするだろうと思えるよ

鶺鴒君=一見秀才、二見オボッチャン、三見*** (想像してケレ) と言われているから、そう買いとくよ。私達よりも知識は広そう。博学？

山川さん=ニヤニヤなんか…伸びるのびる手が忍び寄る。慎重派、かわいい弟、頼れる兄貴。おっかないお父さん、ガミガミ、ガンコ。

海保さん=まじめ、まじめ、いい人 (しらける) 誰かと一緒に歩いているという噂を耳にした。後のことは知らないよ。

岡戸さん=ロマンチスト。あしながおじさん、フェミニスト、いい人 (さっき、お菓子くれたから) お幸せに！

竹村さん=自分中心主義、よく食べる (彼女の分まで)。山小屋のヌシ、鑑賞に値する人物。

附録 曾根原さん西井さん=谷間に咲く一 (二) 輪の白百合にも、隠れた情熱がある。

私達の目と耳は正しかったのであります。

文責 西井・曾根原

山小屋日記なるものを書くのは初めてなのだ。ア、来てしまった。来てしまった。はるばる横浜からスキーとザック担いでサ、エッチラオッチラ。もう来ちゃったから、オラ知らねえ。山小屋って、そんなに愛着は無いけど、でも部外者 (嫌な言葉だ) として来てみて、なんとなくイイ感じが、今している。思うに、山小屋に来るチャンスが無かったからなんですネ。これからは部外者としてちょくちょく来るドー。だから 250 円なんて絶対高いと思うのだ、もっと安くしろ。今、暇、とてもヒマ。そこでダラダラ書くもんね。山小屋来る前 迷った。来るの止めようかなって。て言うのも、現在、やろうとしていた事に少々疑問を感じてきたので、但、今まるで勉強はしておらず、将来の岐路はどんどん迫ってくるしアセッてしまっていた。エネルギーが低下してしまって、何もする気がせずという状態。そこで気紛らしに というわけ。気紛らしには最適ですネ、これは。従って、全てを忘れて遊ぶつもりでござんす。

ネ、人間は何を頼りにして生きていくんだらうねえ？人間って、感情の動物だとつくづく思うのだ。気は持ちよう、丸い卵も四角く切れる。マツタク、マツタク。絶対不変、不動なものなんて、この世には何一つ無いネ。

UmiTamotsu (毎日書くことにした) 第1弾 →でも書くことあるのかナ→イイヨ何書いても→ボールペンの無駄だ→イヤ、インクのムダなのダ→俺のジャないモン→それじゃ考えるのムダだ→どうでもイイヨ→気が向いたらかく

3年 13th 海保茂道

凄い事発見しました。昨日、岡田さんの旅館に泊まって、思ったんだけどネー、お金さえあれば、何でも出来るって事。お金を、たった1日のバイトの半分ぐらい、つまり 1000 円程払えば、メシを作る必要もなし。風呂に入れるし、暖かいフトンでゆっくり寝れるんだ。皆様、旅館に泊まりましょう。山小屋なんて不便だよ。石炭で燻されることも無いしネエ。そして、どうしても旅館では満足できない人だけが、小屋に入ればいいのですダス。

今日も雨、チャンチャン降りました。きっと私の行いが悪いのでしょう。ここに来た日も悪かったし。雨、もう降らないで。雪、溶けちゃうヨ。4月1日に帰るまで、雪が無くならなければいい。来週はどっかに行くのです。ゲレンデだけが俺の活動の場でないもんネ。池の平に行つて、風呂に入り、笹ヶ峰で昼寝しよう。

3年 13th 竹村昇

朝はゆっくりと寝て、起きたらご飯が出来て、只今も、女の方が夕飯作って下さっています。ホントに申し訳ない。しかし、あの台所に3人居れば十分でございましょう。ご飯が出来たようなので、ここで終わり。どうもお世話になります。片づけだけは、家では毎日しているので、今回もしますので許して。部外者 恵 続き。結論として片づけはしなかった。する意志は十分ありました。実を言えば、私はご飯作るより、片づけの方が好きなんです。なにしろ味付けには全然自信無し。

GF 恵 (部外)

3/23、正確には 3.24 の 1.00

外はまだ雨が降っています。私は ここ 2, 3日、何か妙に神経が苛立って、なかなか寝付けません。もともと、昼間寝ているせいでしょうか。でも、今日は早起きだったし、多少はくたびれている筈でございますよ。4月から働かなくてはなりません。いやなことです。労働自体は楽しいものであるはずですが。なぜならば、人間の生の本質とは労働にあるからです。と言っただけでは、私は何事をも述べていない。何故そうなのかを論証しなければならないのですが、それはマルクスという人が色々書いているので、私はここでは省略します。では、何故本質的には楽しいものであるはずの労働が、人間にとって苦痛となって現れてくるのか。それは、とりもなおさず、人間の歴史貫通的労働過程が資本制生産様式のもとに包摂されているからなのです。この先は、また後に譲ることにしまして、やはり、これ以上突っ込んでお話しするのはやめましょう。

ともかく私は、色々片付けねばならない用事があるにも拘わらず、海保クンとスキーを持って、ブラブラと山小屋にやって参りました。

ワンゲルっていうのは、つくづく対話が無いです。勿論、無くてイイなどと言っている人は居ないでしょう。新執行部は、少しでも良い方向に向けようと頑張っていることでしょうか。それは、正当に評価しなければなりません。

でも、もうこういう話は、求められた時以外は、するのは止しましょう。私はもう、過去の人間でしかないようですから、せいぜい寛大なOBになるように努力しましょう。実際に行動していないと、だんだんと現実からずれていってしまうものですから。もう、30分位経ちました。まだ一向に眠くならない。外は相変わらず雨が降っている。

人間は気づかずに大きな間違いを犯すものです。例えば私が就職したとすると、”社会人になった”と言うような事。では、学生というもの、あるいは、それ以外の就学しているものは、社会と対立する、あるいは社会とは別の概念で捉えられているのでしょうか。そ

うではないことは、皆知っている筈だ。ところが、正に学生と社会を対置することによって、世間は区別しているのではないか。それ故に、この問題を突っ込んでみた時には明らかに、思考上の混乱が見られるのです。一言付け加えておくと、内部に自己の生命を再生産する機構を持たない社会は、決して持続的存在たりえない。

連合赤軍。

この山小屋日記にはあまり出てきませんね。関係ないと思っているのかな。やはり彼等は悪人だったのかな。

越村信三郎は次のように言った。このことは大学として誠に遺憾である。今後、教授会や評議会でじっくりと検討して、良い解決策をとっていきたい。時間がかかると思うが(立法措置によって解決するより時間がかかるということ)、それが大学の自治である。大体こんな事書いてあったよな。読んだ奴居るか。ちょっと、連合赤軍からはそれるけれど、これは、一寸前にストまでやらかして、大学の自治=教授会の自治という見解と闘ったが、全くそのことズバリの反動的見解ではないか。

マスコミの発達によって、人は常に第三者的立場で情報を受け入れる。常に野次馬的視点に立ち、自分に跳ね返ってくれば迷惑そうな顔をして、私は関係無いじゃありませんか、と言う。

連合赤軍というと、道端の酔っ払いまでが悪人であると信じ切っている。パチンコ屋にも手配書が張られている。陰惨である。私は決して、彼等が過ちを犯さなかったとは言わない。しかし、人々は一体如何なる意味で彼等を悪人と呼び、罵り、ツバをかけるのであろうか。警官を殺したから? 無関係な人間を人質にしたから? 彼等にとって正義とは、与えられるモノなのであろうか。警察が手配書を出したが故に、赤軍は悪人なのであろうか。

銃口から革命は生まれません。よくそう言われる。しかし、革命の何たるかを一度も主体的に規定したことがない人間が、あるいは、今の日本には革命など起こりっこないと啼く人間が、その様なことを言えるのであろうか。お前には”銃口からの革命”ではなく”革命”そのものが存在しないのさ。だから、その段階の意識に於いては常に、”銃口からの革命” = ”革命”としか映らない。

また、人は言う。この犬は悪い犬だ。捕まえようとしたら吠えた。殴ろうとしたら噛みついた。なんて凶暴なんだ。全く悪い犬だ。

かつて”私達の中のヒットラー”という名著が書かれた。私は連合赤軍のリンチ事件を知って、私の中の連合赤軍をおそれる。奴等は気が狂っている。普通の人間のやることじゃない。そうじゃない。普通の人間は、あのような状況において、あのようなことをして

しまうのだ。……嘗て、あれだけ大勢いたナチス官僚は、一体戦後何処へ行ってしまったのか。街の煙草屋で煙草を買って、お釣りを貰うのを忘れてたら、わざわざ追いかけて、お釣りを渡してくれるようなたばこ屋のおじさん、それがナチの官僚だったかもしれません……と言うのが言い過ぎであるとしたら、我々が街で出合う普通の人間と、全く彼等が同じものとして、考えることが、自分の問題の出発点となる。狂人の烙印を押してしまったら、もう人は何も考えない。浅間山荘は一つのショーであった。警察は短時間のうちに台本を書き上げた。――凶悪な連合赤軍――可愛そうな人質の泰子さん――人命を尊重する皆様の信頼のマーク 機動隊

人々は一日中テレビに吸い付けられ、それが大事件であればあるほどわくわくし、警官が射殺されると報道されても、死というものが予想したほどドラマチックではなかったと、不満さえ抱く。プロレスよりは面白かったでしょ。

4年12th 山川隆

昭和 47 年 3 月 24 日 (金)

<下山 (西井、曾根原、下田他3名、竹村&GF恵、岡戸、岡戸 GF)>

朝、目を覚ましたら、雨がドシャドシャーと降っていた。今日こそ帰ると、固く決心したのに、またもやザセツ？ しかし、平素の私の行いが良いのかどうか、ただ今 11:45 雨は降っておりません。従って、帰る事に決定。周りは慌ただしく、スキーを滑りに行く用意。それでは、そろそろ腰を上げることにしましょう。さよなら～～～

2年 14th 靖子曾根原靖子
またくるよ、山小屋が好きになっちゃった じゃあね
曾根原 (set.)

帰るのは明日だけど今日で山小屋とはさようなら。中にいると何もする気 (勿論、家にいても何もする気はありません。) が無くなって、スキーもめんどくさくなるどころです。面白かったです。というわけでこれは別に、山小屋には関係無かったですね。

部外者の身で、こんな事を書くと、ぶっ飛ばされちゃうとか「もう来るな」なんて言われるかもしれないけど、山小屋が好きなので書きます。「もっときれいに使いましょうよー」。一人一人が、自分の散らかしたものを片付けるとか、ゴミはちゃんとゴミ箱に捨てれば、もっともっときれいなのに。それでは、山小屋の今後の発展をお祈りしてさようなら。

GF 恵 (部外)

聞いてください。今私は、リフト券8回分を拾っちゃったわ、うれしいワ。ムッフフフ。リフトに乗っている間中、ずーと、下 見てたけど、何も無かった。第3ゲレンデでガスが濃くなって、どこを滑っているのかなー と思っているうちに、緑と赤の紙を見つけたんです。なにしろ私は、パラレルでグングン飛ばしていたものですから、もう何十米か下まで行ってしまったけど、意地汚く戻ったのです。ヤッタゼベビー 明日はやるぞー。なんてったって8回分、タダで滑れるんだから。

3年 13th 竹村

訂正させていただきます。

WV部の人達は、山小屋を大切に使っていました。ワリとザックバランに使うのは 部外者の人達かも。もっとビシビシ注意するとか、一でも無理な話ねー。どうぞ、私めのたわごと、気にしないで下さいませ。

GF 恵 (部外)

真っ白な紙に何か書くのは好きじゃないんだけど、

何故かっていうと、白い紙にはすぐ、何か書きたくなるからで、矛盾してるかなと思う。

今日は霧の中で、自分一人で滑っていたので、絶対パラレルぐらいは出来たと思っているのだよ。続きは何時間か経ったら書かれるであろう。

結局、前の行までは、二十四日に書いたんだけど、それから山川さん・海保さん・鶴飼さんと俺で、4人で Hi・NIKKA を飲み、歌等歌って、とにかく何やかやとやりまして、とどのつまり、続きは二十五日になってから書いてる訳でありますよ。

ついに三日目突入。何も書くことは無いので、何も書かず、四日目に突入しようと思ったが、紙が白けりゃ心も白けるってわけで、何か書けぞ。と言いつつも、書くことなど毛頭無く次のページに進むのであります。

雪が一つ落っこって来て、口に入ったのはもう何時間も前の事です とは書けないな、そんなこたあウソだから。

もう幾つ寝るとお正月ってのはあんまり白々しい。

本日私は買い出しに行ってきました。忘れないうちに、幾ら使ったか書いておきましょうか。ニジマス 二匹 九百六十円、ニンジン 三本百円、キャベツ二個 四十円と四十円で八十円、玉ねぎ1kgとちよつとで百と五十円、醤油 二百三十円、サラダオイル百四十円、ネギ一束七十円。

まだまだ最初に書くと宣言した紙は、あとこれだけ残っているのです。

紙が白けりゃ黒くするんだってねエ。

紙が黒けりゃやっぱ黒くするんだってさ。

紙は白いからこれは黒のボールペン、紙は神カミカミカミカミカミ食いたい、背中がカミい。 終了

三月二十六日 1年 15th うしくぼ

昭和 47 年 3 月 25 日 (土)

2 : 20a.m.

今日は4人 (山川氏・鶴飼・うしくぼ&me) という淋しい、実はせいせいとした夜だったのです。メシを食い終わったあと、おもむろに ヒ、ニッカ を取り出し飲む。Snow 割り・ウマイ。コタツは暖か、歌えや歌えやと、マアいい気分 (でも少なかったな、ちよつと)。夜更かしをしてしまった。明日、リフトに乗っているとき寝るんじゃないかな？寝たら、降りる時に、スキーを引っかけて落っこちる。白野の二の舞はイヤだもんね。

なぜか時の経つのが早い。あつという間にもう 25日になってしまった。考えてしまう。時の経つのが早いというのは、それだけ充実しているということだろうか？充実？イヤ、そんなもんじゃない。これが充実

していることか。単なる気紛らしに過ぎない。そう思う。俺が充実する時は、もっと違う時だ、スキーをやることは、何も後に残らないもの。充実したら、それは俺の生活史の上で後々まで残るモノであり、保持されるものだ。もっと素晴らしい時であるはず、至高経験を伴うだろうな。では、何故スキーをやりに来たのか。わからない、人恋しさからかな？遊びたかったから。さあー？I don't know、である。現在というか、今、眠さと疲れと、本当に少々酔い（酔ってナイナ、もう）とがミックスして、なんとなく朦朧としている。では、インスピレーションをば。スキー・好き・あの娘・ムム…、三無主義・三民主義・孫文・世界史・寺沢（高校の時の教師）。ルイ 14 世・バカ・色キチ・ポルノ・映画・200 円（エ？わかるか？鈴木・小泉・阪本・川端なんかはわかるはず）、実演（エ？???）、ダメな男・私・弱気・弱体・ナンセンス・帝国主義粉砕・インター・医療・金・ゼニゲバ・ゲバゲバ九十分・大橋巨泉。「これはパイ、二つでパイパイ、任天堂の役マン、君もつもらない？」・CM・WC・くさい・バカめ つかれる。やめる

3 年 13th um i 海保

昭和 47 年 3 月 26 日（日）

<入小屋（狩野、A、A 妹かほる）>

11:47 の妙高 5 号で狩野さんと、妹と、3 人で入小屋する。途中雨が、ビシヤビシヤと降り注ぎ、杉野沢リフトは惨めでした。しかし、第 1 リフトの辺りから、湿り気のある雪に変わり、ちょっと安心。第 2 リフトからここまで、スパッツをつけて歩いてきました。こんな雪の中を歩くのが初めての妹は、長靴の上にスパッツをつけて、ボコボコもぐって、キャーキャー言っていました。天候が崩れると、山の経験の無い人が入るのは、ちょっと大変なのかもしれませんね。今年は雪が少なく、暖かで、雨が降り注ぎ、ベシヤッとしています。

山小屋に入って印象を述べるのはやめましょう。一時的な感情を口にするのは…とも思うし。いろいろと変化するのが現実だから…。

妹の紹介。名前 かほる。年は 18 歳。一年生とは一つしか、年が違いますからよろしく。

本日午前中、さっそうと例のスタイル（オーバーズボン、カンSPA）で飛び出したのは良かったが、第二ゲレンデを滑り降りる時、転んだ回数は五回。そのうち 1 回はスキーがすっ飛び締め具のゴムが切れてしまい、足のアキレス腱をギューと伸ばしすぎて、少々痛い。頭きて、リフト乗って、国大ゲレンデで滑ったが、

これまた滑るごとに転び、やる気を無くす。

今はコタツにヌクヌクと、そして書いているのです。

昨夜から、週刊誌を読み続け、今は殆ど読み尽くしてしまいました。思うに、漫画アクション・プレーボーイ・パンチ等はずっと読んでいて酷いもんなのだ。ちょっと読むのが イイようです。面白いのは、話のチャンネルとかいうの。よくもマア、あんなに下らないモノをずーと書いたもんだ。（でもおもしろし）。その点少女フレンドは良いよ。単純明快でナ。

ア~~~~ア、暇だナア。

PM.4:00 頃にスキーから帰ってきました。ゲレンデは霧が酷くてまだまだへっぴり腰スキーの我等（エイコちゃんと私メ）には先が見えないので怖くて怖くて。

今、私は一つの決心をしたのです。「たぶん帰るのは 4 月 1 日頃だから、それまでに このノートを書き尽くそう」。このノートの最初は私です。そんでもってこのノートの最後もまた、私にするとしたら、何となく嬉しいではないですか。うまく言えないけど、ともかくうれしいヨ

そうそう、昨日あの娘帰りまして、今日、この娘帰りまして。私は自由になりました。でもちょっと、疑問がわいたのです。この娘が帰って、自由になったのは嬉しいんだけど、あの娘が帰って自由になったのは、ちょっと淋しい気がします。小学校からずーっと、自由って素晴らしいって教わってきたけども、自由って本当に素晴らしいんですか。知っている人、おせえてほしい。

このノートを終わらせるために、これから先は後で書くのです。

3 年 13th 竹村

白い紙の所に下らないことを書いたんで、こっちはまともな事書くの かな と思ったりしている。今日私は第 3 ゲレンデのボチボチの新雪の中を一人で、シュプールをつけてきたのですよ。ちょっとばかりヨレヨレのシュプールだったけど、それはそれは見事なものだったのです。 おわり

1 年 15th うしくぼ

昨日は 23 歳の誕生日だった。もはや嬉しくなかない。19 になったときは嬉しかった。20 歳になったときは長浜に居て、19 歳最後の晩は、女を探して長浜の町を一人で歩いていた。そして、これからは 少年 A ではなくなることを意味を考えていた。21 歳の時は九州に居た。大学生活の中で、最も強烈な思い出というか、出来事というか、この 21 歳の誕生日は、決して忘れることの出来ないものでした。3 月 25 日の 3 日前、オレ達にとって、スト解除後の最初の、そして 2 年と 3 年の中間の立場で春合宿を行った。その九

州*丹山で垣内が滑落した。その為、5合目の山小屋で不安な毎日を送っていた。ただ何となく、何をするとというわけでもなく、全ての悪夢から免れる為。そして、その山小屋でオレは、ろうそくの火を消したのだった。やはり嬉しかった。だが垣内は、落っこちてしまったという二つの気持が複雑に入り組んで、何か辛い、胸がギュウと締め付けられるような、そんな思い出が残っているのです。そして22歳の誕生日は西丹沢の箒沢だった。僕にとっては3年最後の、ワングルにとっては川端死後初めての合宿。その合宿の集結の時だった。酒を飲んでテントの中に居た。それから1年。本当に早かった。今現在、山小屋に居て、そう思う。23歳の誕生日を山小屋で送れて幸せだったと思う。だがこの1年、何もしなかった。ワングルとは無縁となった自分が何か寂しい四年になってしまっていて、弱気になったものだと思う。一つの目標を絞った時、ワングルはオレから消えてしまったのかもしれない。この一年、新人合宿・夏合宿・旧人合宿と、遂に一年と同じ山の生活を送れなかったのが、やはり残念。これからのワングルを支える一年生を、この目で見たかったと、やっぱり思うから。

昭和47年3月27日(月)

<下山：N. A. (元YWV秋野?) 山川、岡戸>、
<入小屋：二村 >

もうこれで、当分、山小屋に来れないなと思うと、やはり寂しいです。ワングルを去って一年半、その間また自分なりに、別の生活の中で暮らしてきましたが、ワングルの生活に触れると、身の置き所のない寂しさを感じます。

あと5日で学生生活とは縁が切れ、朝から夕方までバッチリしごかれる生活が待っています。束縛ってイヤですネ。

スキーは4回目だけれど、ちっともうまくならない。素質が無いのかなー。高木君にバカにされてしまったのだ。さあ、今日1日 ミッチリ滑って転んで、家に帰ることにしましょう。

山小屋の生活は楽しかった。ワングルの皆さん、お世話になりました。また暇を利用して来させてくださいネ。その時はよろしく。

N. A.

このノートに報告します。今日、武庫川の裏山のキジ場に見えるコブに登りました。そして、一生懸命、目を凝らしたけど、結局何もめえなかった。後で小屋に寄ったら、女の子はみんな帰ってしまったあと。しまった。来年は、女の子の居るときにコブに登ろう。

双眼鏡を持ってネ。

今私は、わずかばかりの知識の中から、懸命になって文章を書いているのです。そうそう、外にキジ撃ちに行ったら、月が靄っていて、金星は三田原の上にキラキラ輝いていました。私の知っている星はあと、シリウスに北斗七星です。夏合宿で田中に白鳥座をおせえてもらったけど、私の悪い目には、どうしても一人では見つけだせません。星を憶えようと思ったけど難しいネ。小口よりは早く憶えるつもりなんで、ガンバラナクチャー

3年13th 竹村

同日、夜

今日、山川さん、岡戸さん、秋野さんが下山した。そして二村さんが昼、山小屋に姿を見せる。とても感慨深い。

山川さん、4月から職場でしごかれる。そして寮へ入ると言う。当分会えそうもない。山川さんの真の姿(それに近いモノ)に触れることが出来なかった自分が、とても淋しく感じられる。二年の時は、主将としての山川さん、山行ではリーダー、上級生といった表面のみに惑わされていた。ワングルを去って、最近久しぶりに会った山川さんに違ったモノを見いだした気がして、一緒にスキーに来てしまった。

岡戸さん、秋野さん。岡戸さん、L養で一緒だった。あの人の優しさに触れたのもこの時。秋野さん、ワングルに入部して初めて口を利いた女の人。尾瀬で一緒に行き、なにかと世話になった。

何だろう。ワングルを去った人間にとって、全ては過去の出来事ばかりなんだろうか。まして今度4年という人間にとっては…。ワングルの集団に入ってみると、まるで過去の人間だということが改めて思い知らされる。別れ ってこんなもんなのかな? 何気なく” さようなら” と言って、そして一生会わないのかも知れないなんて、不思議なもので…。

スキーは少々上達した。楽しき日々である。無心で何も考えず、メシ食って、ねて、滑って…。

山川さん、岡戸さん、秋野さん、” さようなら” (心を込めて、別れのあいさつ)

また会えたら…

3年13th UmiTamotsu 海保

昭和47年3月28日(火)

<下山(山田、鈴木)>、
<入小屋(高橋)>

山田、鈴木下山。高ハシヤ小屋に入る
私、本当にバカです。今日も池の峰に行って来てし

まった。途中、武庫川の女の子に会って、「こんにちは！」って言ったら、一番後に男が居てガッカリ。笹ヶ峰に行くとのこと。顔は見なかったけど、多分一人ぐらい可愛い子 居たと思う。池の峰のバス停から仙人池に降りて池を横断した。氷が割れるなんて、みんながおどかしので、四つ足で行き、途中から「アバルマン式」のへっぴり腰で歩いたのです。もし落ちたら、私は死ぬとの事らしいので、冷や汗ダラダラ、嶺線沿いに昨日立った、ピークに再び立つ。私、男ですもの。隣のコブたんでスキーを履いて、颯爽と私はかっこよく滑ったのです。山スキーの高橋さん、小口、高木、鶴飼、鈴木、小泉、大島、山ノ井のみっともない格好を尻目に、実に爽快に滑ったのです。林道からは競争心で、小屋に滑ったけど、もちろん私は1番でした。サスが私です。午後からは自由練習、第2グレンデの上級者コースを実にみっともなく滑った私です。あれは、きっと高橋さんのスキーが悪いのです。

3年13th NT 竹村

<スキー (竹村、高橋、小口、高木、鶴飼、鈴木、小泉、大島、山ノ井) >

日は上と同じ

今、酒飲んでるんですよ。あんまりうまくはないけど、とにかく酒とありや、目のない私、正月に2階から落ちたって、小屋で飲む酒はうまいかどうか判らないけど、飲めるんですよ。とはいえ、今日はあんまり飲めない。世界は回るって、時間は経ってって、世の中つまんなくなっちゃった。楽しい事無い、やんなっちゃった。 世界は回る Ushikubo
しらないよ 酔ってるんだもの もう知らんよ おれよってるもん 無責任 むせきにん ノートいっぱい つかって すみません

1年15th うしくぼ

昭和47年3月29日 (水)

<入小屋 (村松) >

昨晚、皆様方は、とても良い気分だったらしくて、夜1時半頃、騒々しさに目を覚まされてしまった。そのせいか、今8時40分なのに、小口以外は誰も起きてこない。牛窪は酔ってたゾー、メロメロって感じ。議論を聞いていて面白かった。

明日帰ることにする。帰ればまた、前途多難な道が待っている。今は本当にそういった道からはずれて、休んで、英気を養っている感じである。気紛らしはどいうやらしい結果をもたらそう。

スキーはまあまあイ線いっている。満足というところか…

3年13th

UmiTamotsu

昨日は8時頃上にあがったものの、何となく寝付かれなくて、ロウソクの灯を見つめていた。狩野さんがゴソゴソ動き出したのだ。側によって二人でムニムニ話してしまった。話しても解決できない事だらけなのだけれど、今迄いろいろのことがあった。そんなことを繰り返していくにつれ、自分がギスギスに枯渇した状態になってしまうことには耐えられない。そんなものなのだ諦めて生きたくもない。昨日、池の峰に皆と行った。この前行った時は、霧で何も見えなかったけれど、今度は妙高・黒姫・笹ヶ峰牧場と、回りの山々が、青空の中に、白と黒の姿を現していた。(ここで、桜井さんの熱が依然と高いので、心配で、ノートを書き続ける気力が無くなった。) 今日、下に泊まる予定ですが、やはりここに残ります。小屋で熱を出した人は、私の知っている人では、二人目。一年の時の田代さんと、彼女。本当に誰か病気になると、山小屋の不便さが身にしみる。病人も、気分的にも弱気になってしまい、心細くなるのではないかと。早く 熱さん下がって下さい。私の考え方は、間違っているのだろうか。

一つの山に登るにしても、様々な登り方があり、また、それぞれの楽しみ方がある。人が生きていくということや、ワンゲルの中で、やると言うことに関して個人個人あるのだと思う。そこで何を求めていか。自分がどのようなことを目指すかが問題なのだと思う。己の心を聞き、自己を解放し精神の自由を持った人間として、行動できるよう努めること、それが大切だと思う。ワンゲルが出来るのは、そこまでではないかと思う。それから先は、個人の生活の場での闘いだと思う。

愛とは、一体何なのか、思いやりとは、人と人との結びつきは、種々の価値観の表面的崩壊と、多様性と名付けられる人間存在の中で。しかし、私達の社会は、その様な状態ではない。家族、労働、生活、社会、それら一つ一つを、私達は、現実の生活の中で、うち立てていかなければならない。その方法は、個人個人違うのだと思う。大切なのは、目指そうとする努力-実践、そして心、なのではないか。(こんな文章は、19世紀的なのだろうか。でも私にはやはり、人間一人一人の意識というものが、重要だと考える。)

今日私が、下におりないという事もいけないことなのか。昨日言った様に、自分のしたいことをすることが大切なのなら、下りるべきなのか、それを、彼女が心配で下りないという行為は、非難されるべきなのか、私には、ある人達の意見がよく解らない。しかし、私自身、個人の意識を育てる為の行動を何もしていないととられている以上、こういう状態ではいけないのか

もしれない。そういう場を設定して、皆を引っ張っていかなければならないのかもしれない。私は、あの個人主義的—我関せず的、小山台の高校生活の中で、他人に干渉してはいけない、人はそれぞれ自分の目的を持って生きているのだから、少なくとも、同じ事を目指す人とだけお互いに、自分をぶついたり、言い合ったり、いろいろと出来るのではないかと、考えるようになってしまったのか。

私自身、現状に押し潰され、それから一步も出ない人間なのかもしれない。この考えは、いろいろ考えると、いつも思う。頭でっかちで、意識家で、自分の考えが無く、自分の身体で捉える事無く、皆、人と本の受け売りで、そんな自分がいやで、一からやり直そうと大学に来ただけけれど、生まれつきの、いや、小さい頃から染みついた性格、というものはなかなか変わらない。自分の意見、考え方を述べたり、行動したりすることが、とても困難である。言えない というのは、何も無いからなのか、ある認識を持ってくれないと、そういうことは、その人の行動やものの捉え方なので、解ると思うのですが、そういう点で一致出来ない、もう何も言えなくなるのです。

こう言う八方美人とか、自分を隠すとか、いろいろ言われるのかもしれませんが、そんなことは全く無いのです。全体に差し障りが無いのなら。

でもどこかで、自分がダメなんだという声が聞こえます。逃げているんですね。努力していないんですね。誰か教えて下さい、どうすれば良いのか。方向性が出せないでもがいている人間で、何もしない人間ということなのでしょうか。

理論、現実を動かす力、その理論と方法をうち立てられず、考えをまとめられず、かといって、現実に日々、生起している問題には対応できず…。

黙っていることで逆にそれらを助けているような、そんな自分にも耐えきれず。政治とか組織とかを嫌い、個人の力というもの、自分自身の生活を通して、自己の生を形作るという試みは、光太郎や智恵子の悲劇が典型的にその限界を表している。それでも私達はどのように対処し、また、作り出していくべきなのか。

昨日は青い空や白樺や、木立や白い山々を見て、心の泉、溢れる思い、感動、豊かさ、そんなものを失いたくないと思った。新鮮な心、自分の心がしなびて、しばんでいく、絶えず張りつめ、ピンピンしている、大きな豊かさ、そんなものを持ち続けたいと思った。

2年 14th 山ノ井

池ノ平のツアーコースに行行って来ました。コースは易しく、私にもスイスイ行けました。天気の良い日は安心して行けるコースです。池ノ平の三ツ山ゲレンデを降りたのですが、緩やかな斜面にベトベトの雪で、かなり白けました。池ノ平で風呂に入ったけど、風呂

はバス通りの左側の、汚い所で、風呂銭は大人 25 円です。結局誰も、お金払いませんでした。風呂の後、ビールを飲みながら歩いて杉野沢に戻ってきました。

山ノ井に一言文句あるのです。自分が本当に下に降りたいのなら、降りれば良いと思うのです。そこで降りられないというのは、結局降りたくないということではないのか、私はやっぱり降りないと思うけど、私は降りたいけど降りない、のではなくて、降りたくなくて降りないのです。何も解っていない人ですネエ。

村松、小屋に入りました。明日には帰るとの事、小屋代 50 円しかとれなくて残念。

雨が降り出しそうな気配です。皆、まわり将棋をして騒いでいるのです。私は 将ぎの「ぎ」の字を思い出そうと必死になっています。ここに来て考える事と言えば、そんな事ぐらい。もうすぐ四年、就職なんて事あるのに、ちっともそんな事考えていない。だから、クラスの奴等ともズレルのだらうと思うけど、いいのかな。実際、ここに居ると考える事しない。嬉しいような楽しいような悲しいような。悲しい割合が多くなったら、帰ってゆくつもり。

3年 13th 竹村

11:35p.m.

明日 帰宅予定、天気は悪そう。楽しかった、ただその一言かな。本当に…。山小屋は良かった。

帰れば、また別のあの部屋、あの机が待っている。そして、また私の生活が始まる。苦しくてイヤになってしまう生活、でも、やらなくてはならない生活が、生きなくてはならない生活が。

桜井が熱を出した。少々風邪がはやっているようです。考えてみれば、もう4月の声を聞くころなのです。そう考えると、あせって、嫌になってしまう。

また来ます。今年の暮れにでも。それまで、” さようなら”

3年 13th UmiTamotsu (海保) 元 13期

昭和 47年 3月 30日 (木)

<下山 (村松、海保、小口、小泉、桜井、牛窪、山ノ井妹) >

あと何日で4月になるのでしょうか。東京にも桜が花開く季節。

雨が屋根に当たってザーザー言っています。

今日帰った人。 村松・海保・小口・小泉・桜井・牛窪・山ノ井 (妹) の方々。

どんよりとした空は、杉野沢リフトに入ったとたん、本降りとなり、桜井さんはかなりかったるく歩いていた。低気圧に入っている様な、雨はかなり降っていま

す。今は小屋に7人。

この頃の山小屋は、いつも飲むものが何も無い。小屋に居ると、どうして飲みたくなるのかしら。またこんな事を書いて、お嫁のもらい手が無くなるのかしら。この雨の中を露の臺(ふきのとう)を積んできたので、今鶴飼さんが何やらおいしいものを、作っている所。行動食のた*しとピーナツを炒めて食べたり、コタツにヌクヌクと、後にストーブと。

井戸のバケツが壊れたそう。壊すことは誰にでもあるけれど、それをそのままにしておく神経が判りません。一言教えてくれるとかして欲しいんですが。

今、疲れて、全然、どうでもよくて、わからなくて、めんどうで、ただ、ここに自分が居るだけという感じです。

夜半、3/31 夜に近いあさ

数えて 22 回目の山小屋行。今年に入って2度目。土曜の夜から日曜にかけて、新婚家庭を二つ訪問してきた。そこで淋しくなり、思い立って山小屋に来ました。一人淋しく夜行列車に乗るのはいやだったけど、なるべく早く来たかった。

山小屋には沢山人が居ました。どの顔も久しぶりでした。そしてこれから当分、見えない顔が。3月とは別れの季節なのだ。ここ1週間通り過ぎて行った人々。上原サンと優子さん、林さん、榊原、中島、**、*仲、関口、大塚サンと奥さん、武*さん、丸山さん、伊藤さん、鈴木さん、山ノ井と妹、狩野、山川、岡戸、秋野、海保、竹村、二村、村松、小口、鈴木、鶴飼、高木、小泉、山田、桜井、牛窪、大島。今までオレは人については無関心、いや、離れていた。大事にしなかったようだ。何もかもスッキリしない、モヤモヤのまま、過ぎていってしまう。ともかく一つ一つの時間、機会を大切にしていこうと思う。今のオレにはそれしかできない。この先、現役と一緒に山へ行くのだろうか、ワンゲルに対しても、何もしなかった。ワンゲルに永く居すぎた気もするし、まだまだ居居らない気もする。しかし、後何年居ても、何も解決していかないだろう。

3年 13th (鉄腕アトム) 竹村

昭和 47 年 3 月 31 日 (金)

<下山 (高木、鶴飼、大島) >

昨日からの激しい雨もあがり、今日はガスが出ていますが… (この後の言葉がない) それでも第3ゲレンデは雲の上、四方の山が美しい。今日、高木・鶴飼・大島の3人が下山した。黒沢 P.W.は雨の為、計画変更となり、殆ど小屋に居た6人でした。スキーをしに来た人と一緒になり不本意な点もあったことと思います。

ある人の言葉、”所詮、ワンゲルとは暇つぶし。” こんな言葉を聞くと、淋しくなります。暇つぶし とは、どういうことなのでしょう。このことは、またの機会にします。

今、小屋は4人、高橋さんと竹村さんと狩野さんと私、コタツに入って、男二人どもは、する事も無く将棋で遊んだり、変なことを言ったり、ざわざわしい様な、静かな様な。今狩野さんが、寒いと言って、竹村さんの横に行きました。それから、山ノ井はケツに根が生えたらしく、ちっとも動かないのです。上から雪が降ってくるというのに、あいつはひどいやつである。竹村(私)は、ストーブの番をしていて忙しくて、他の仕事が出来なくて残念です。高橋さんは、あの汚らしい、どうでもいいようなシラフを心配して、上に見回りに行きました。狩野は、俺の事を下らないと言って、コタツに入ってヌクヌクして、人のことを馬鹿にしているの、憎い人。

真相は、人に指図する人は、他人に命令をして、人が動かないと思っているのです。「ネエ、竹村さん、あれ取ってエー」なんて言葉聞いた人なら判るはず。今 8:30。全くする事ない。外にキジ撃ちに行くのも淋しくておっかないし、はたまた上に行って寝るのもまだ早いし。狩野をからかっているも下らないし、山ノ井と高橋さんの挟み将棋もなんだか漫才というか、見ていて馬鹿らしくなる。家に明日 帰るのです。2週間ぶりかな。どうも私は、家にいるのが退屈で、旧人合宿1週間の後、次の日の夜行で来てしまった。別に親父やおふくろがつまらないという訳ではないのに、家に居るのは、あまり好きではない。私も、かなり年を取って、そろそろ自分の生活をしたくなつたのでしょうか。親父、おふくろ中心の生活から離れなければならないという宿命なのか。人間 結局 一人ぼっちかもしれない。サミシイネ

3年 13th NT 竹村

信じる事、それは愛する事
疑う事、それも愛する事
いったい私は何をしたのでしょうか
雪が降っているのです
雨具をつけるのもいいです
あなたはいつも肩透かしをするのです
唐松林を抜けて思いっきり走り寄った時
あなたは霧の中を消えてしまうのです
霧、それは甘い桃蜜の味
愛する事は、さみしがる事です。

夕飯を食べる頃から雪になった。雪が小屋の中に入ってくるが、雪はいい。久しぶりの雪であろう。

3年 13th 竹村

昭和47年4月1日(土)

<入小屋(榊原)>

積雪1cm、ただし小屋の中。ひどい吹雪です。外はもう30cmくらい積もったのだろうか。泥やゴミを完全に隠してしまっている。風も強い。なのに私は、横浜に帰るのです。チャオ

4年13th 竹村

April. 1. 卯月.

竹村さんは今日下山する。(予定だそうです。)

外は吹雪。小屋の中も吹雪。この山小屋、どうして雪が積もって…

今、榊原さん登場。水色の帽子、真っ白。黒い靴真っ白。

今年できること。小屋の内部の改修、棚、私物入、靴置き場…、乾燥室などの整備。そして外張りのこと。それから使用細則の決定。来年の為の資金確保(便所…)。ランプ、**、石油ストーブ…

いつの頃からか、暗闇とか、雨音とか、風の音が、怖くなって、9時頃、バイト先から家に戻る時も、何だか恐ろしくて、誰か出てきそうな、捕まえられそうな気がして、家まで一目散なのです。

春の嵐

冷蔵庫に入れて置いたペミカンが新雪に埋もれて、スコップで小屋を雪だらけにして掘ったけれど、遂に見つからず。

3年14th 山ノ井

昭和47年4月2日(日)

A.M. 8:00 -5℃。どちらかといえば雪。

4月バカヤローの雪が今日も降り続く。積雪は50cm(隣の人達は1mという)に達した。屋根も、唐松も、ゴミ捨て場もみんな、白一色になった。展望台の”ねこ”も寒さに震えていることだろう。何故、展望台に”ねこ”が居るのか、わからないが、ともかくネコヤナギも芽を吹いていたのを見たことがある。

なぜ、4月に入って雪が降るのか。雪の中を帰る気がせず、今日も1日留まることにする。雪に埋もれた山小屋、キジに行くのも大変だ。スキーに行くかどうか。

4年13th 竹村

30日から天候がきずれ、4月に入って粉雪となった。毎日、コタツにあたりたり、寝たり、本を読んだり、トランプをしたり、話したり、食べたり、片付けたりの毎日。私は思考する事が無いのかもしれない。旅に

出ると、自分の周りの事柄に心が奪われる。

四月、新しい季節、出発の時。

今日で何日目なのだろうか。神経がマヒしたようで気持ち悪い。お風呂に入りたい。

ワンゲル山への生活は、私に表面的には180°ぐらいの変化を与えたようだ。

一つ耐えきれない事。それは、明日のこと、次のことを考えて行動すること。仕事も、行動も、自分の思考さえも決定づける。

3年14th 山ノ井

昭和47年4月3日(月)

<下山(山ノ井、狩野)>

2日のこと。10時頃から、お日様が顔を出し、快晴となりました。新雪もあって気分爽快。

杉野沢も雪に埋もれて、冬に逆戻り。でも空の青さや、モクモクわき上がる雲や、ポカポカ当たる日の光はもう、4月のそれでした。

周りの山々も、雪に埋もれ、青い空を背景に、日に輝き、美しく輝いています。野尻湖も青く輝いています。

3年14th 山ノ井

起きてすぐキジに行くのはよくない。目がやられてしまう。そんなにも本日は太陽がまぶしいのです。昨日は雪質最良、コースよし、スキーよし、腕悪しで、カキ・トウフ・ハウレンソウ・ビール2本を買ってきて、ごきげんにカキ鍋などをやらかしました。今日、女の子二人下山していくとのこと。俺も帰るかなと考えていますが、天気が良く、妙高の懐に居るのも、これから当分望めそうも無いので、又又、留まってしまいかもしれません。女の子は「私が居なかったら何も出来ない」と思っているから、それを是が非でも否定しなければなりません。

発見しました。(発見者バラ) このノートの表紙の裏の英文は「ハムレット」です。To be or not to be。

さあ皆さん、今日も元気にスキーをやらさう！誰かリフト券買って、お願い。

又又発見しました。英文は「ハムレット」だけではなく「ヴェニス商人」等、シェークスピアだそう。

4年13th (鉄腕アトム) 竹村

小屋っていいな。一年の夏に初めて小屋と会った時、私の心の中には、小屋に対する愛が芽生えました。この頃は小屋の周りもかなり人の手が入ってきていますが、それでも残雪や新緑やススキ野原や、赤とんぼ、紅葉、キノコ狩。新雪、スキー、… また小屋での毎

日の生活、寝たり起きたり歌ったり食べたり。

皆さんも小屋の良さを知っているでしょう。だから小屋を大事にしてください。愛してください。使ったものを元に戻す。備品の管理、ごみ等の始末。

小屋も創立当時の事を知る人が一人減りしていくうちに、この小屋を与えられたモノ、そこに在るもの、単に利用すると考える人が多くなってきています。小屋は、私達一人一人のもの、一人一人によって変わる。私達の心のふるさと、をいつまでも心のふるさととして、維持して欲しい。

3年14th 山ノ井

3日のこと、今日は昨日にも増す快晴。どうしよう、今日帰るのも、明日帰るのも同じ事。帰るのかつたるい。でも、もうずっとお風呂に入っていない。これは決定的なこと。

昨日、新雪の中で、岩につまづき、左の膝を捻ってしまった。力を入れたり、伸ばすと痛い。

3年14th 山ノ井

昭和47年4月11日(火)

<入小屋(ミッキーマウスのマーク)>

晴れ のち雪

妙高高原 6:00-6:25 杉野沢 7:15-7:45R 1 7:50-8:20R2 8:30-9:30 小屋

岡田さんの所でお茶をご馳走になり、今やスキーの出来ない林間コースを登る。もうバテバテ、やっと小屋に着く。道路は既に除雪されていたのだ。人っ子一人居ないゲレンデへ出て上半身素っ裸でスキーをする。気持ちいいのだジョー。今度みんなもやっごらん。

14:00 頃小屋に戻り、今 14:30 コタツに火を入れ、ココアを啜りながらこの日記にむかっている。最初、すぐキレイになっているなあと感心。14:00に戻ったときはもう普段の状態。これじゃいけないんだ！すぐ片付け始めたけど、どうせ14日迄居るんじゃないかと5分でうち切り。ゴメンナサイ。今回、小屋へは設計の勉強に来たんだ。製図の単位、落としたくないもん！ひとりでゆっくり勉強するんだ！勉強するんだ！でも、やっぱり淋しいな。誰でもいいから玄関の戸を開いて入ってきてくれないかなー。あんなに家を出る時、小屋に誰も居なければ、静かでのんびりできていいなあ、と思っていたのに…いざ来てみると、淋しくてたまらない。人間って勝手なんだネ？それとも僕だけかな？ちがうよネ！

前の文を書いた人へ 僕は小屋が好きです。ちゃんと後片付けをしていきますよ！

s.47.4.11 14:40 現在は HajoTip

あーあ！これから池の峰まで行くつもりだけど。コタツから出たくないナー。

池の峰へ行って来た。僕満足！でも夕方から雪になった。心配だナー。明日の天気。夕食を食べたのにまだ明るい。なんか変だナー。だけど夜行で眠っていないから、もうネル。 **さん(ミッキーマウス) おやすみなさい。 P.m. 6:05

Hajo?

昭和47年4月12日(水)

雪&ガス のち晴

またまた僕ちゃんですよ。みなさん おはようございます！ 外は雪です。今日は笹ヶ峰へ行こうと思立ち すぐ出かけました。

小屋 6:45-8:15 牧場-10:45 ピーク-12:40 牧場-13:50 小屋

ガスが濃くて、ピークに立ってもなんも見えなかった。何も見えない中を、誰が待つでもない小屋に戻った。誰か来いよー！今日もはやくネルー

p.m.2:15 目が覚めたら良い天気だったので出かける。 小屋 15:45-16:45 赤倉山の南 標高1500m 地点-17:50 小屋

シールをつけて登る。第3リフト終点まで30分、下りの方が時間がかかったのは、スキーが3回も流れたから。僕の腕が悪いんじゃないよ。道夫の山スキーがいけないのだ。 p.m. 7:30

Hajo?

4月12日に戻っちゃうの。

笹ヶ峰に行く途中、雪の上を小さい虫がいっぱい歩いていた。そのうちの数匹がワカンの下に入ってしまった。あの虫、死んじゃったかな。

今 21:50。ラジオをつけ、ローソクの火(石油を使い切った)のコタツでボサッと起きている。外でピカリと光ったような気がした。恐ろしくて、キジに行けない。

HajoTur

22:00 になった。ニュースでまた交通事故の事を言っている。ここに居ると、信じられないようだ。平和でノンビリ、いいなあ！ふと、思い出した様に、バリコンをNHK第2に合わせるのはどういうことか？

竹村さん 最後のページは僕になってしまった。

昭和47年4月13日(木)

昨夜8:30に、とうとう石油が無くなり、今朝のコタ

ツの火はローソク、だけど暖かいよ。 4:30 起床 - 3℃ 快晴です

一昨日池の峰、昨日笹ヶ峰、今日は？ 思い立ってとうとう出かけたのです。何とか無事に小屋に着いた。今考えるとゾツとするような事を、僕ちゃんしてしまったのです。

4月ともなると、陽差しが強くて顔がヒリヒリ。イヤーネ！タオルで覆面しないとダメ！

今日の昼飯はお茶漬け、居眠りをしていて、メシを焦がしてしまいました。変な味がした。晩飯はちゃんと炊くゾー。

pm6:10 小屋を出て池の峰を目指し、pm7:00 着、7:30 小屋着。真っ暗になってしまったのだ。

H a j o ?

屋は開いていたが誰も居ない。早速フトンを片づけ掃除をした。雑巾も少しかけてみた。乾燥室を片づけ始めたが、あまりのひどさに、手の付けようがなく、少しで止める。掃除の後、展望台へ行ってみた。夕闇にかすんで野尻湖が見えた。もっと良く見たくて木に登って見た。そしたら、世界が変わったようでした。チョッピリ満足して小屋に戻った。帰りは道がよく分からなく、暗くなっていたのでとても不安でした。一人で小屋に泊まるのは、初めてです。明日もきっと、一人でしょう。淋しくて仕方がない。コタツの周りに、誰か居て欲しいのです。みんなはよく、少人数が良いと言います。僕もそう思います。でも、沢山でもやっぱり楽しいのです。そんなワンゲルの小屋を望みます。小屋の整備は大変です。でもこれからは小屋を大事にできそうです。(X)

昭和 47 年 4 月 30 日 (日)

終わるか終わらないかなんて考えるより結局一番最後のページに書けば、私はきっと自己満足するのです。私がこんな下らないことに夢中になるのはなぜでしょう。それは小屋が好きで好きでたまらないからです。少しでも自分で独占したい、そんな気持ちがあるんです。勿論この小屋は、OB の数と現役の数を加えた数分の一の所有権しか私には無いのかもしれない。でも、小屋のプロパンガスを入れて、石油を買い、石炭を冬用に横浜から持ってきたりして、自分で維持する、というのが、何となく嬉しいんです。愛する人には全てを投げ出す心理と同じです。私と同じように、小屋を愛する人には、嫉妬さえ感じる時もあります。妙高なえな小屋、私にとって忘れ難い恋愛だったかもしれない。「だった」という言葉は、私がいつまでもこの小屋を一人で切り回してはいけない事を悟ったからです。小屋にとっては新しい恋人 必要なんです。私は横浜にでもつくります。新しい恋人は、どうも女のようなのです。するとこの小屋は、男か女か、男だったらホモっていたのかな、女だったらこれからレズるんですね。話が汚くなったけど、私みたいな人間がワンゲルに増えたら、小屋は良くなるでしょう。小屋以外の事は沈滞すると思うけど。

4 年 13th 竹村

昭和 47 年 5 月 3 日 (水)

<入山 (X)> PM.8:00

今日は始発で海老名を出てきた。鉄瓶をさげ、あえぎながらやっとの事で着く。井戸の近くに水芭蕉が咲いているのを見た。ちょっと驚き、嬉しくなった。小